niji VOICE 2018

～LGBTも働きやすい職場づくり、生きやすい社会づくりのための「声」集め～

特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ
国際基督教大学 ジェンダー研究センター

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

目次

- 調査の概要
- 標本の代表性
- 調査結果の報告
- まとめ
- 添付資料

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

調査の概要

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ

NIJIIRO DIVERSITY
虹色ダイバーシティ

◯性的マイノリティもいきいきと働ける職場環境づくりをめざすNPO法人
◯2013年に法人化、現在は代表含め常勤スタッフ5名体制

＜主な実績＞
◯LGBTと職場に関する社会教育事業（企業、行政、一般向け講演など）
◯LGBTに関するコンサルティング事業
◯受託事業：淀川区LGBT支援事業、渋谷区パートナーシップ証明実態調査
◯企業と共同調査：トイレに関する調査（LIXIL）、アライを増やす取り組みに関する調査（JT）
◯助成金：Googleインパクトチャレンジ賞、LUSHチャリティバンク等
◯共著「職場のLGBT読本」「トランスジェンダーと職場環境ハンドブック」
◯受賞歴：日経WOMAN ウーマン・オブ・ザ・イヤー2016 チェンジメーカー賞、
第4回 日経ソーシャル・イニシアチブ大賞 新人賞、日本トイレひと大賞

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

niji VOICE 2018

国際基督教大学 ジェンダー研究センター
（CGS@ICU）

<CGSとは？>

〇ジェンダー・セクシュアリティの研究に関心がある人たち全てに開かれた
　コミュニケーションスペース

〇2004年4月発足

〇学外の個人・団体とも積極的にネットワークを構築

〇学部専攻分野「ジェンダー・セクシュアリティ研究」をサポート

＜主な活動＞

〇ジャーナル『Gender and Sexuality』を年1回発行

〇シンポジウム、講演会、ワークショップ等を開催。6月にはイベント週間「R-Week」を実施

〇所在地：東京都三鷹市（JR中央線「武蔵境」駅からバス15分+学内徒歩）
　開室時間: 平日12:00-16:00（その他大学暦に準じた閉室、臨時の閉室あり）

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

共同研究者リスト

- 村木 真紀: 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ　理事長
- 高松 香奈: 国際基督教大学 ジェンダー研究センター センター長
- 平森 大規: ワシントン大学大学院社会学研究科博士後期課程
  国際基督教大学ジェンダー研究センター 研究員
- 協力:　特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ スタッフ一同

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

アンケートの背景と目的

【背景】

・日本では、職場や社会でカミングアウトするLGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字）等の性的マイノリティ当事者がまだ少ないため、どのような困難があり、どんなニーズを持っているのか、把握が難しい

・職場等でのLGBT施策を推進するために、その効果を明示する必要がある

【このアンケートの目的】

・ ダイバーシティ施策全体も視野に入れつつ、LGBT等の性的マイノリティが働きやすい職場づくりを推進するための日本のデータを積み上げる

・ 報告会実施後に、個人情報を削除したデータを公開することで、学術目的の二次分析を可能にする（回答者が類似した調査を何度も受けることによる負担を軽減するとともに、この調査の成果を広く社会に還元する）

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

niji VOICE 2018 調査概要

- 特定非営利活動法人虹色ダイバーシティと国際基督教大学ジェンダー研究センターの共同調査（調査実施主体：特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ）
- 正式名称： LGBTと職場環境に関するWebアンケート調査 niji VOICE 2018
  ～LGBTも働きやすい職場づくり、生きやすい社会づくりのための『声』集め～
- ウェブ上のアンケートフォームを利用(SurveyMonkey 有料版)
- 回収期間：2018/6/1-7/16(46日間)
- 参加者： 2,348人（有効回答数：2,262人）
  過去の調査の参加者： 2014年 1,815人、2015年 2,154 人、2016年 2,298人
- 全50問（すべて任意回答のため、設問によって回答数が異なる）
- ウェブサイト、Twitter、Facebook、Instagram、講演会、既存の虹色ダイバーシティのクライアントへのメールマガジンでの協力依頼等で周知（Twitter、Facebookには広告も掲載）
- 右下のロゴを使用（制作：虹色ダイバーシティ 加藤悠二）

本調査には、株式会社TENGA様より、2017年に展開されたチャリティ商品の「TENGA RAINBOW PRIDE CUP 2017（テンガレインボープライド カップ2017）」の収益の一部をご寄付いただいております。心より御礼申し上げます。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

アンケート冒頭のただし書き（添付資料参照）

・アンケートの対象者は、日本の職場で働いた経験のある方です（アルバイトなどの非正規雇用も含みます）。現在働いていない方は、直前の職場についてお答えください。

・性的マイノリティの当事者も、当事者以外の方も回答することができます。

・この調査への回答は任意です。

・複数の職場を持っている方は、主な職場についてお答えください。

・現在の職場が海外の方は、直前の日本での職場についてお答えください。

・過去の職場、副業的な職場に関するエピソードや調査に対する意見を記載したい場合は、最後の自由記載欄に記載してください。

・パソコン端末、スマートフォン、タブレット端末から回答可能です。

・複数の方が同じ端末から回答することはできません。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

設問（全50問）

変数、切り口として

【年齢】【就業状況】【就業形態】【出生時の性別】【性自認】【職場での性別】【性的指向】【アイデンティティ】【勤続年数】【都道府県】【都市規模】【パートナー制度の有無】【労働時間】【職場の規模】【業種】【職務】【職位】【賃金】【学歴】

職場環境として

【カミングアウト】【LGBT施策・実際】【LGBT施策・希望】【勤続意欲】【アライの有無】【職場のハラスメント】【求職時の困難】【差別的言動の有無】【差別的言動の実体験】【相談しやすさ】【仕事への満足度】【職場の人間関係】【心理的安全性】【理想の職場】【健康診断】

その他

【理解を感じたエピソード】【差別的言動の具体例】【病気】【メンタルヘルス】【自殺未遂】【家族構成】【パートナーに関する経験】【感想】

（赤字：新しい設問）今回は設問によって分岐の設定もあり

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

標本の代表性

NIJIIRO DIVERSITY
虹色ダイバーシティ

CGS
Center for Gender Studies
International Christian University
Tokyo……Asia

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

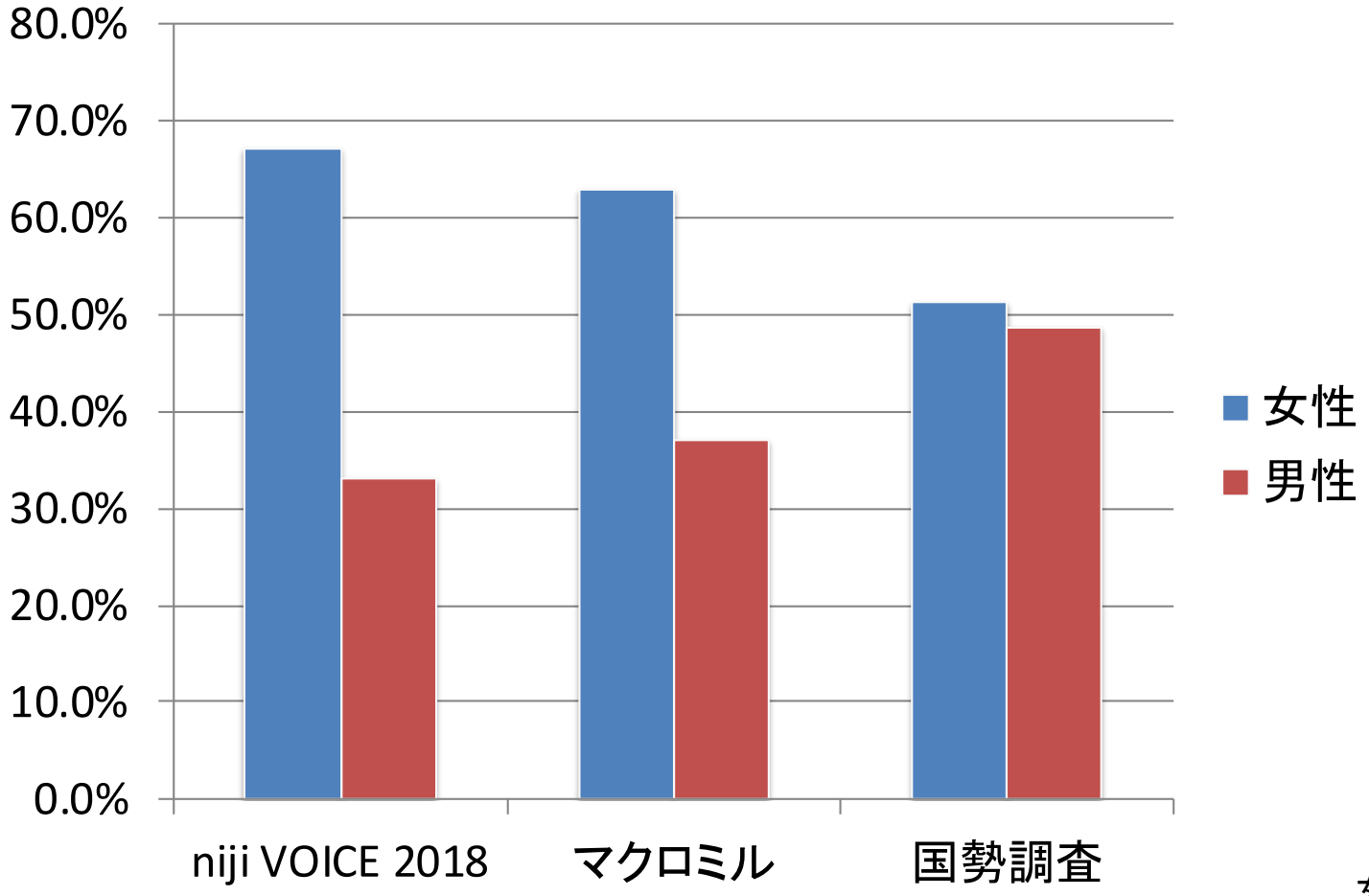
性的マイノリティをテーマとする調査の様々な手法

- 全国無作為抽出調査（例：性的マイノリティについての意識—2015年全国調査）
  - 確率標本：日本在住すべての個人が等確率で選ばれる仕組み、「くじびき」や「サイコロ」のように、誰が調査対象者として選ばれるかを偶然にゆだねる
  - 日本在住の人々の実態の正確な縮図になるような設計
  - マイノリティの実態については分かりにくい
- オープン型ウェブ調査（例：niji VOICE 2018、REACH Online）
  - 非確率標本：調査実施者が広報を行い、協力者を集める
  - 集まった回答は社会全体の正確な縮図にはならない
  - 調査テーマに強い関心の持つ層が自発的に回答するため、無作為抽出では把握困難な人口層の実態を捉えることができる
- クローズド型ウェブ調査（例：電通ダイバーシティ・ラボによる「LGBT調査」）
  - 非確率標本：ウェブ調査会社が自社に「モニタ」として登録している人が調査対象になる、謝礼が付与されるため無関心層や非マイノリティも回答
  - 調査会社モニタの人口学的特徴は日本社会の全体像の正確な縮図になっているとは言えない、大規模調査の場合はマイノリティにもリーチ可能

→それぞれの長所・短所を踏まえ、研究課題/調査目的に応じた手法を採用すべき

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

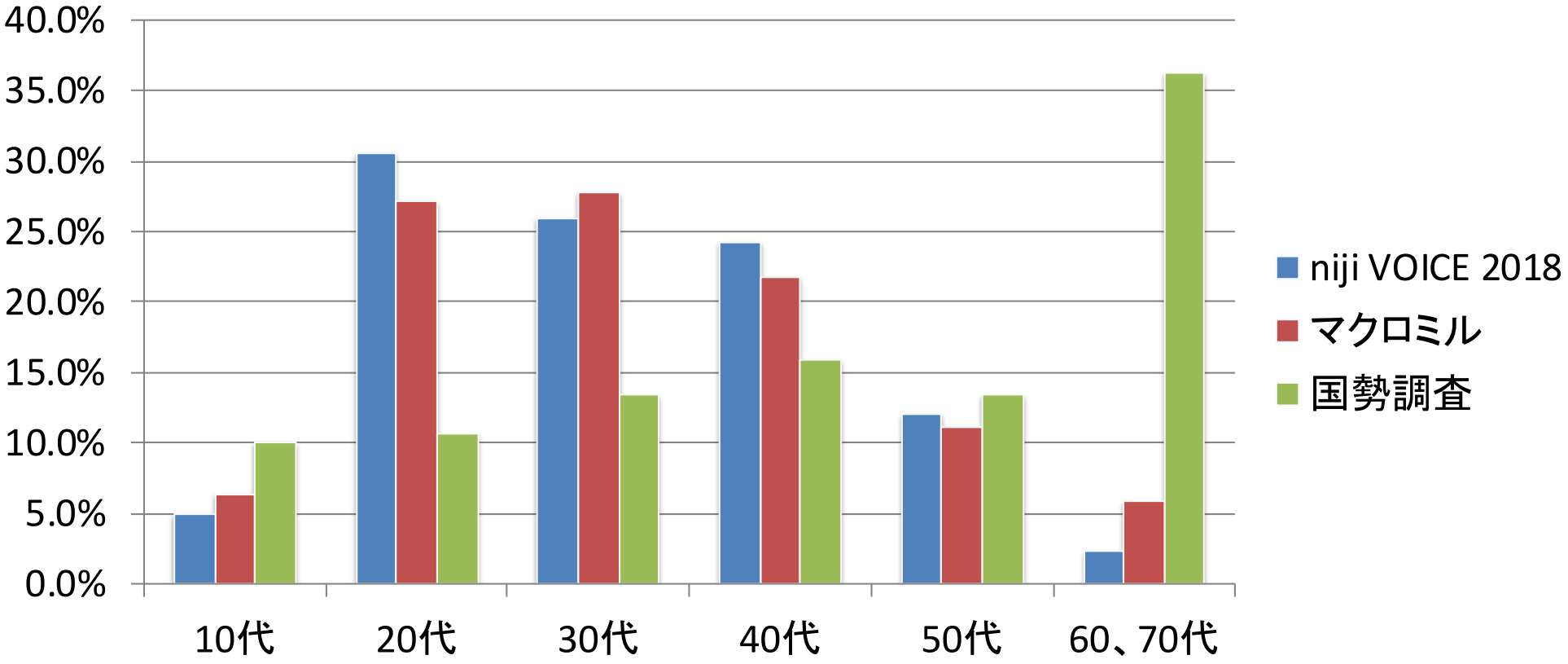
代表性の検討（出生時の性別）



	女性	男性
niji VOICE 2018	67.0%	33.0%
マクロミル登録パネル2016	63.0%	37.0%
国勢調査2015	51.3%	48.7%

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

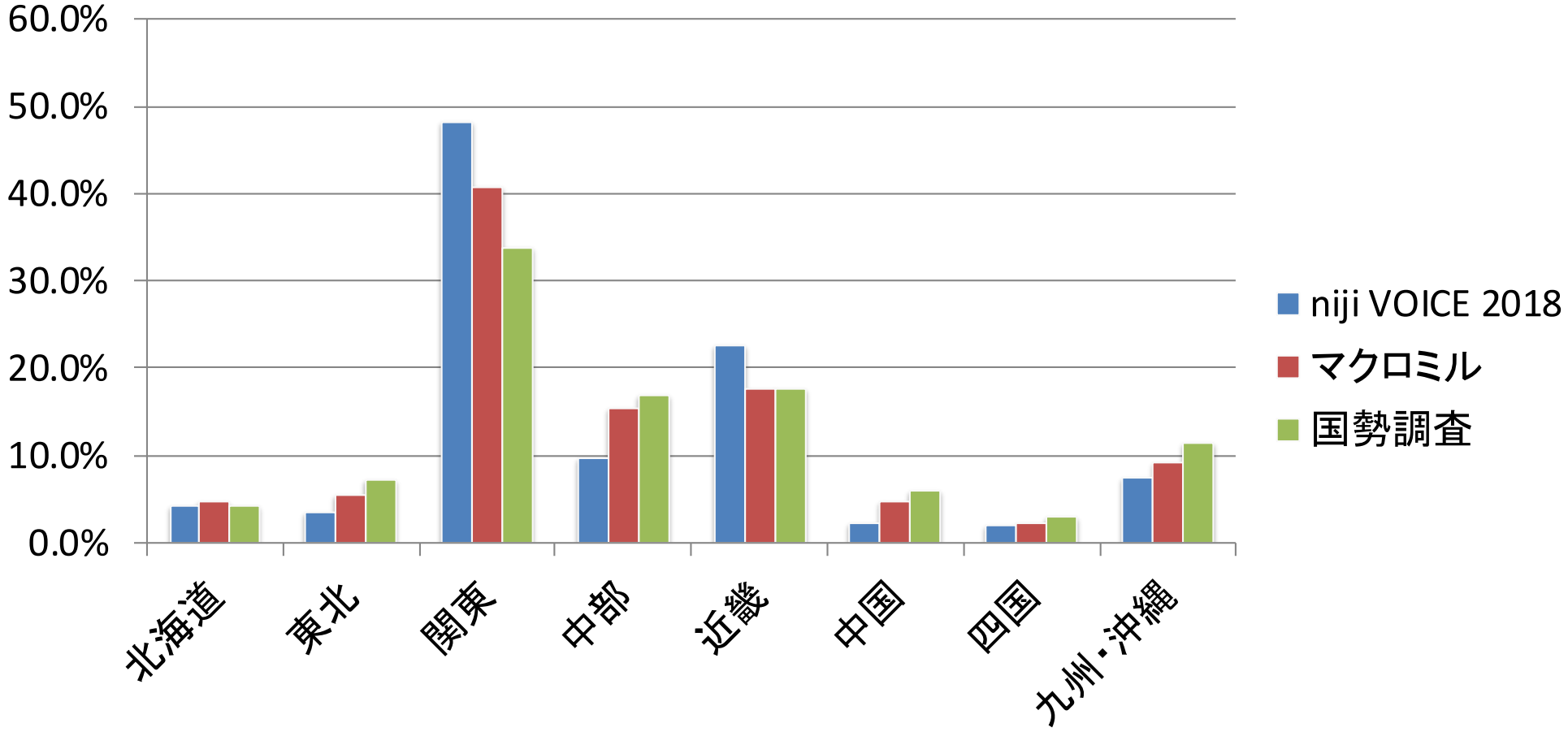
代表性の検討（年齢階級）



	10代	20代	30代	40代	50代	60、70代
niji VOICE	5.0%	30.5%	25.9%	24.3%	12.1%	2.3%
マクロミル	6.3%	27.1%	27.7%	21.8%	11.1%	5.8%
国勢調査	10.1%	10.7%	13.5%	15.9%	13.4%	36.3%

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

代表性の検討（地域区分）

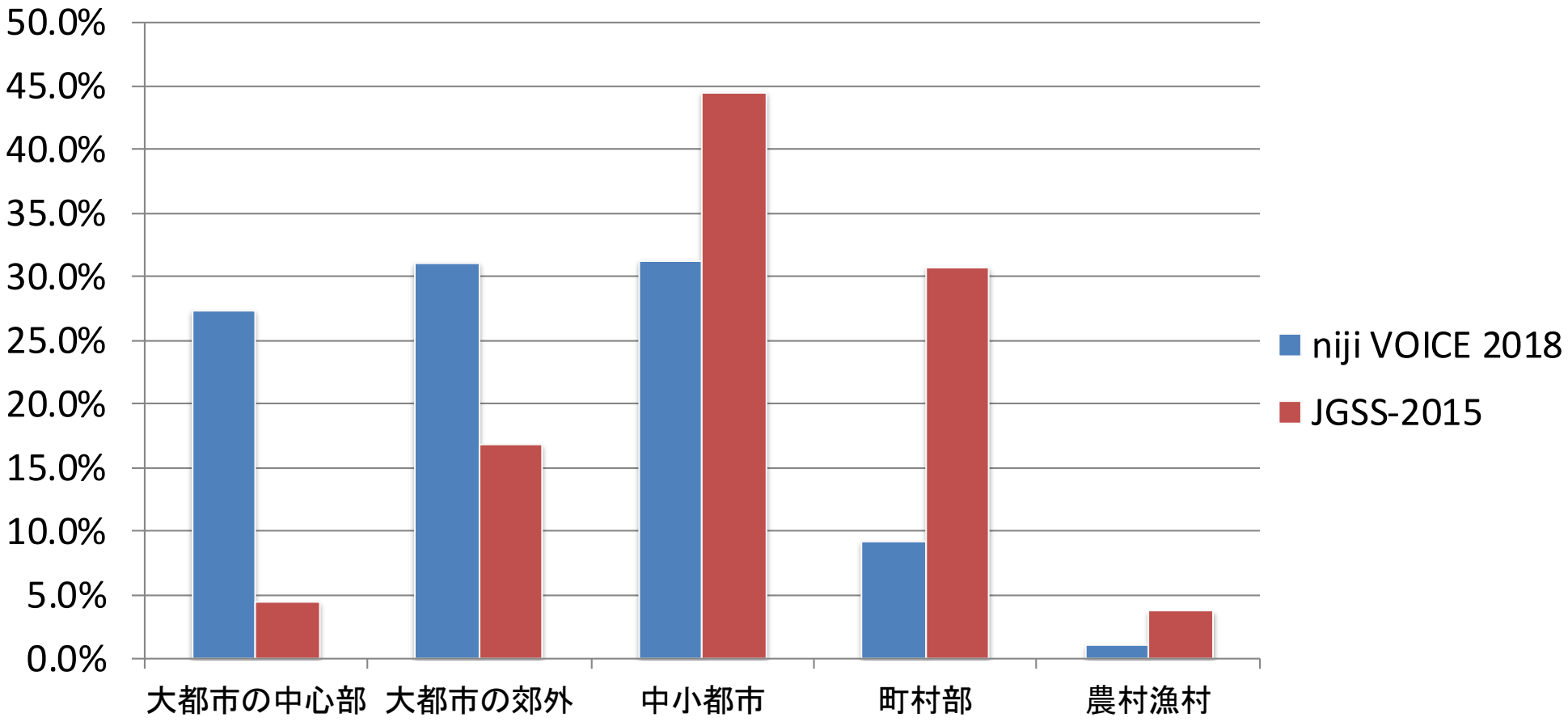


	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
niji VOICE	4.2%	3.5%	48.2%	9.8%	22.7%	2.2%	2.1%	7.4%
マクロミル	4.8%	5.4%	40.6%	15.4%	17.6%	4.8%	2.2%	9.2%
国勢調査	4.2%	7.1%	33.8%	16.9%	17.7%	5.9%	3.0%	11.4%

注：本アンケートの問20（地域区分）はJGSS-2015 問47を参照して作成しました。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

代表性の検討（地域規模）



	大都市の中心部	大都市の郊外	中小都市	町村部	農村漁村
niji VOICE	27.4%	31.1%	31.3%	9.2%	1.0%
JGSS-2015	4.5%	16.8%	44.4%	30.7%	3.7%

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

代表性の検討（まとめ）

- 代表性の検討からわかったこと
  - 女性（出生時の性別）による回答が多い
  - 20-40代による回答が多い
  - 関東地方、近畿地方在住者からの回答が多い
  - 大都市在住者からの回答が多い

→「niji VOICE 2018」はLGBTと職場環境に関する貴重な調査データであるが、調査の回答傾向を過剰に一般化をすることはできない

- 統計の出典、参考文献
  - マクロミル登録パネル2016
    (http://www.macromill.com/monitor_info/pdf/20160401web.pdf)
  - 国勢調査2015「平成27年国勢調査人口等基本集計結果」（総務省統計局）を加工して作成
    (http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kekka.html)
  - 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター, 2016,『日本版General Social Surveys 基礎集計表・コードブック JGSS-2015』.
  - 釜野さおり・石田仁・風間孝・吉仲崇・河口和也 2016『性的マイノリティについての意識—2015年全国調査報告書』科学研究費助成事業「日本におけるクィア・スタディーズの構築」研究グループ（研究代表者 広島修道大学 河口和也）編
    (http://alpha.shudo-u.ac.jp/~kawaguch/chousa2015.pdf)

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

調査結果の報告

NIJIIRO DIVERSITY
虹色ダイバーシティ

CGS
Center for Gender Studies
International Christian University
Tokyo……Asia

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

今回の分析にあたって

・今回の調査は、個人情報を除いて研究目的のオープン・データとして公開予定であることもあり、性的指向、性自認毎の詳細な分析は行なっていない

・職場のハラスメントに関しては、2014～2016年までの調査で詳しく扱い、特に傾向も変わっていないことから、今回は新規の設問に関して、重点的にクロス集計を行なっている

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

本調査での分類

生まれの性	性自認	性的指向	SOGI分類(12分類)	LGBT等/CisH (2分類)	LGB他/T/CisH (3分類)
女性	女性	女性	シスL	LGBT等	LGB他
		男性	シスH女性	CisH	CisH
		両性＋問わない	シスB女性	LGBT等	LGB他
		該当なし、その他	シスその他女性	LGBT等	LGB他
	男性	全部	FtM	LGBT等	T
	X、その他	全部	FtXなど	LGBT等	T
男性	女性	全部	MtF	LGBT等	T
	男性	女性	シスH男性	CisH	CisH
		男性	シスG	LGBT等	LGB他
		両性＋問わない	シスB男性	LGBT等	LGB他
		該当なし、その他	シスその他男性	LGBT等	LGB他
	X、その他	全部	MtXなど	LGBT等	T

※トランスジェンダーにはレズビアン、ゲイ、バイセクシュアルなど様々な性的指向を含んでいます。

※今回は主に就労についての調査であり、現状の社会においては、性的指向よりも出生時の性別が就労に大きく影響するのではないかという想定で、分析に当たっての分類を行いました。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

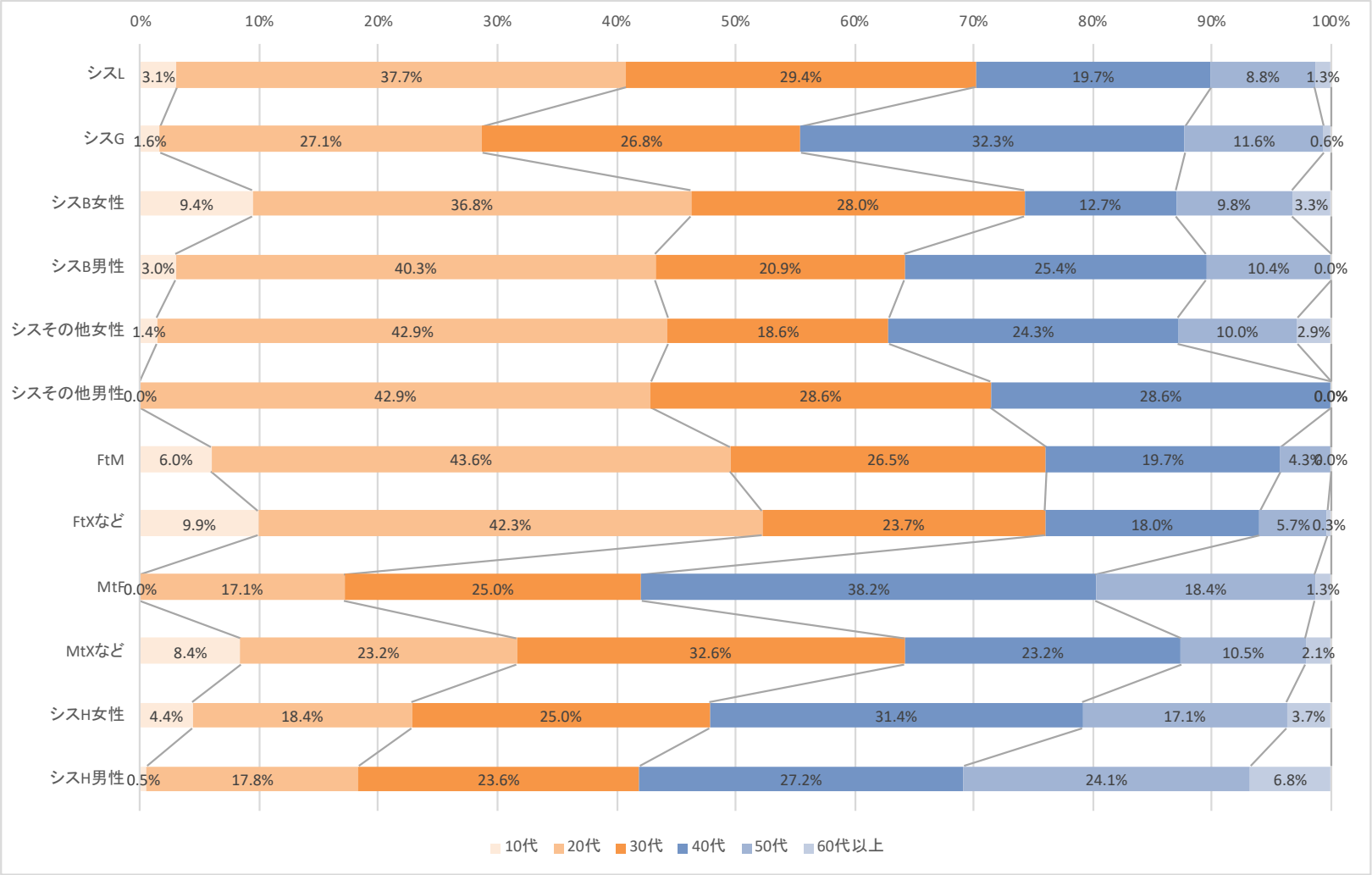
年代 x SOGIによる分類

		シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性	合計
10代	度数	7	5	29	2	1	0	7	33	0	8	20	1	113
	%	3.1%	1.6%	9.4%	3.0%	1.4%	.0%	6.0%	9.9%	.0%	8.4%	4.4%	.5%	5.0%
20代	度数	86	84	113	27	30	3	51	141	13	22	84	34	688
	%	37.7%	27.1%	36.8%	40.3%	42.9%	42.9%	43.6%	42.3%	17.1%	23.2%	18.4%	17.8%	30.5%
30代	度数	67	83	86	14	13	2	31	79	19	31	114	45	584
	%	29.4%	26.8%	28.0%	20.9%	18.6%	28.6%	26.5%	23.7%	25.0%	32.6%	25.0%	23.6%	25.9%
40代	度数	45	100	39	17	17	2	23	60	29	22	143	52	549
	%	19.7%	32.3%	12.7%	25.4%	24.3%	28.6%	19.7%	18.0%	38.2%	23.2%	31.4%	27.2%	24.3%
50代	度数	20	36	30	7	7	0	5	19	14	10	78	46	272
	%	8.8%	11.6%	9.8%	10.4%	10.0%	.0%	4.3%	5.7%	18.4%	10.5%	17.1%	24.1%	12.1%
60代以上	度数	3	2	10	0	2	0	0	1	1	2	17	13	51
	%	1.3%	.6%	3.3%	.0%	2.9%	.0%	.0%	.3%	1.3%	2.1%	3.7%	6.8%	2.3%
合計	度数	228	310	307	67	70	7	117	333	76	95	456	191	2,257
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

✓ LGBT等では “FtXなど” に分類される参加者が最多

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

年代 x SOGIによる分類



✓ MtF、シスH（ヘテロセクシュアル）の参加者の年代が高め

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

アイデンティティ（性的指向）

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性	合計
ゲイ、レズビアン、同性愛者	84.5%	98.7%	5.6%	9.0%	2.9%	28.6%	14.7%	19.2%	29.2%	21.7%	0.0%	0.0%	29.2%
バイセクシュアル、両性愛者	3.5%	1.0%	42.6%	56.7%	2.9%	14.3%	8.3%	11.6%	15.3%	10.9%	1.8%	1.6%	11.8%
パンセクシュアル、全性愛者	3.5%	0.0%	23.9%	10.4%	0.0%	0.0%	8.3%	25.0%	18.1%	17.4%	0.5%	1.1%	9.6%
アセクシュアル、無性愛者	1.3%	0.0%	2.6%	0.0%	44.9%	0.0%	1.8%	10.4%	6.9%	6.5%	1.1%	0.5%	4.3%
ヘテロセクシュアル、異性愛者	2.2%	0.3%	6.9%	4.5%	14.5%	28.6%	58.7%	4.3%	18.1%	16.3%	81.7%	85.2%	30.0%
決めたくない、決めていない	4.9%	0.0%	18.4%	19.4%	34.8%	28.6%	8.3%	29.6%	12.5%	27.2%	14.8%	11.5%	15.1%

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性	合計
N=	226	310	305	67	69	7	109	328	72	92	438	182	2,205

✓ 性自認と好きになる相手の性別の組み合わせによって分類した本調査での「性的指向」と、アイデンティティは必ずしも一致しない

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

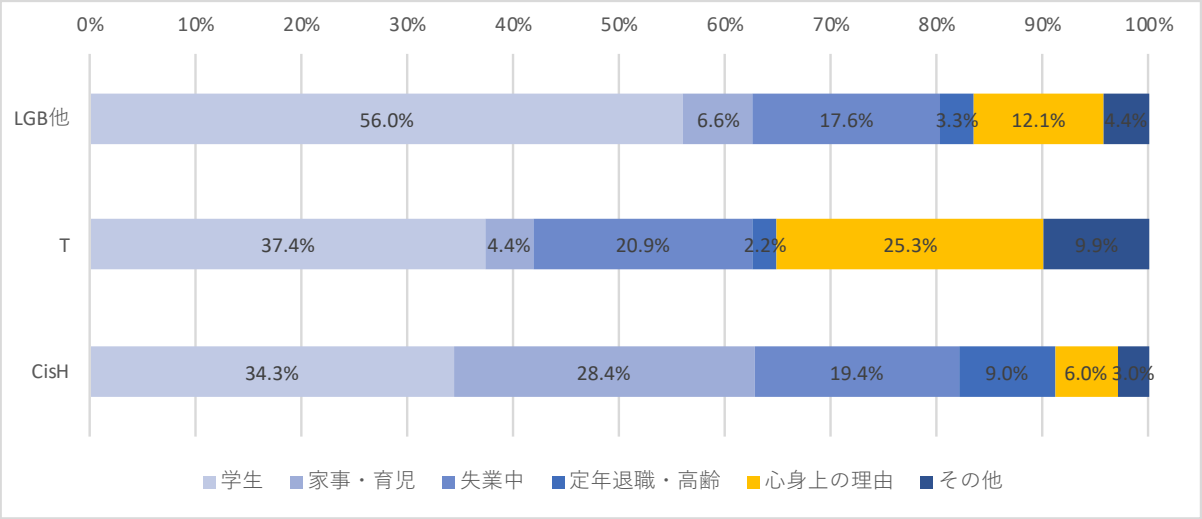
就業状況

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性	合計
仕事を持ち、働いている	89.0%	91.6%	85.7%	91.0%	94.3%	85.7%	85.3%	84.4%	76.3%	78.9%	84.9%	93.2%	86.9%
在職しているが、病気、出産、育児などで休職中	0.9%	0.6%	2.6%	4.5%	0.0%	14.3%	3.4%	2.4%	5.3%	2.1%	3.1%	0.5%	2.2%
仕事をしていない	10.1%	7.7%	11.7%	4.5%	5.7%	0.0%	11.2%	13.2%	18.4%	18.9%	12.0%	6.3%	10.9%

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性	合計
N=	228	310	308	67	70	7	116	333	76	95	458	192	2,260

“仕事をしていない”という人の状況

	LGB他	T	CisH
N=	91	91	67



✓ トランスジェンダーの仕事をしていない率が高く、うち4人に一人が心身上の理由

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

年収

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性
N=	176	244	216	54	41	7	80	245	52	60	281	115

✓ 出生時女性、トランスジェンダーに、年収200万円未満が多い。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

非正規雇用の割合

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性	合計
正規雇用	59.3%	63.2%	45.3%	63.6%	45.7%	85.7%	55.3%	45.0%	56.6%	39.1%	54.2%	69.3%	54.4%
非正規雇用	31.9%	28.3%	45.3%	28.8%	45.7%	14.3%	31.6%	47.8%	31.6%	51.1%	31.1%	19.8%	35.4%
自営・雇用主	8.0%	8.5%	9.1%	7.6%	8.6%	0.0%	13.2%	6.5%	10.5%	9.8%	13.1%	10.4%	9.6%
家族従業者	0.9%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	1.3%	0.0%	1.6%	0.5%	0.6%

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性	合計
N=	226	307	298	66	70	7	114	322	76	92	450	192	2,220

総務省の労働力調査によれば、2017年非正規雇用の割合は 37.3%（高齢労働者の増加）

- ✓ シスジェンダーのバイセクシュアル・その他女性、Xジェンダーで非正規雇用の率が高い

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

学歴

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性
中学校・高校	17.5%	13.5%	17.5%	21.1%	9.8%	28.6%	37.8%	24.7%	26.2%	20.9%	11.9%	13.4%
短大・高専	9.3%	6.4%	10.0%	1.8%	14.6%	0.0%	9.2%	10.3%	11.5%	7.5%	9.9%	1.7%
大学	54.6%	55.0%	49.8%	59.6%	58.5%	42.9%	40.8%	49.0%	39.3%	56.7%	54.1%	53.8%
大学院	15.8%	21.9%	19.7%	17.5%	14.6%	28.6%	8.2%	11.8%	19.7%	11.9%	21.5%	29.4%
大学＋大学院	70.5%	76.9%	69.4%	77.2%	73.2%	71.4%	49.0%	60.8%	59.0%	68.7%	75.6%	83.2%
その他	2.7%	3.2%	3.1%	0.0%	2.4%	0.0%	4.1%	4.2%	3.3%	3.0%	2.6%	1.7%
N=	183	251	229	57	41	7	98	263	61	67	303	119

✓ 2016年調査と同様、トランスジェンダーの方が大学卒・院卒が少ない。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

カミングアウト（環境別）

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど
誰にもカミングアウトしていない	7.5%	7.1%	14.9%	20.9%	24.3%	28.6%	3.4%	9.9%	1.3%	5.3%
友人の誰か	82.0%	86.8%	63.0%	64.2%	22.9%	42.9%	84.6%	73.4%	80.3%	83.2%
家族の誰か	56.6%	50.6%	26.9%	20.9%	12.9%	28.6%	76.1%	44.3%	76.3%	50.5%
職場の誰か	39.9%	39.4%	19.2%	14.9%	5.7%	14.3%	59.8%	26.0%	63.2%	42.1%
その他の誰か	14.9%	14.2%	12.0%	4.5%	12.9%	0.0%	31.6%	21.6%	28.9%	16.8%
N=	228	310	308	67	70	7	117	334	76	95

- ✓ カミングアウトしている人の割合は、友人が最も大きく、次いで、家族、職場、その他である。
- ✓ 本調査に回答している人は職場に関する関心が高い層であり、高めのカミングアウト率になっていると思われる。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

カミングアウト（詳細）

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性	合計(人)
該当しない	3.1%	0.7%	16.3%	13.6%	41.8%	28.6%	0.0%	1.9%	1.4%	3.3%	95.7%	98.7%	660
カミングアウトしていない	7.6%	7.2%	15.3%	21.2%	25.4%	28.6%	3.5%	10.2%	1.4%	5.5%	1.2%	1.3%	168
当事者の友人	75.0%	83.6%	54.2%	56.1%	10.4%	42.9%	70.2%	60.4%	71.2%	75.8%	2.9%	1.9%	1,044
当事者以外の友人	75.9%	67.2%	53.8%	39.4%	17.9%	28.6%	78.9%	62.5%	68.5%	69.2%	1.7%	0.0%	989
きょうだい	44.2%	35.7%	18.3%	13.6%	6.0%	28.6%	58.8%	28.2%	52.1%	37.4%	0.2%	0.0%	509
母親	49.1%	40.7%	20.6%	15.2%	9.0%	28.6%	70.2%	35.9%	65.8%	46.2%	0.2%	0.0%	601
父親	31.3%	25.9%	12.0%	9.1%	3.0%	0.0%	63.2%	20.4%	52.1%	27.5%	0.0%	0.0%	394
その他の親族	16.5%	16.1%	7.3%	9.1%	1.5%	14.3%	42.1%	11.1%	35.6%	22.0%	0.0%	0.0%	246
上司	21.9%	28.5%	11.6%	4.5%	1.5%	14.3%	56.1%	16.4%	57.5%	30.8%	0.5%	0.0%	365
同僚、部下	36.2%	35.4%	16.6%	12.1%	6.0%	14.3%	44.7%	22.3%	50.7%	35.2%	0.2%	0.0%	445
取引先、顧客	7.1%	11.5%	3.0%	3.0%	0.0%	0.0%	18.4%	4.0%	28.8%	13.2%	0.2%	0.0%	130
隣人、地域の人	7.6%	8.2%	2.3%	1.5%	0.0%	0.0%	16.7%	3.7%	27.4%	9.9%	0.5%	0.0%	112
その他	8.0%	6.9%	10.6%	4.5%	13.4%	0.0%	18.4%	19.5%	6.8%	11.0%	1.0%	0.0%	186

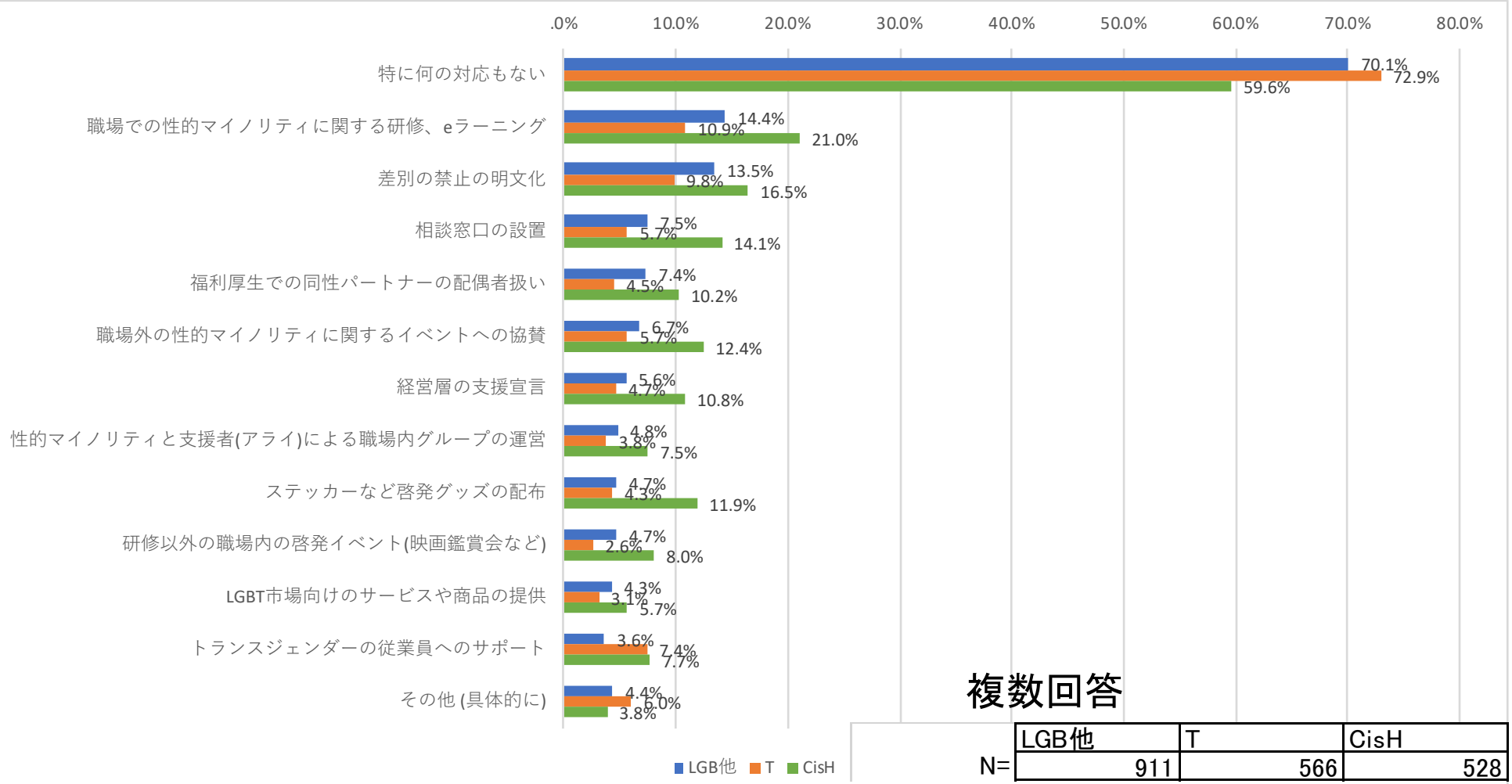
	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性	合計
N=	224	305	301	66	67	7	114	323	73	91	414	159	2,144

✓カミングアウトしている人の割合は、友人が最も大きく、次いで、家族、職場、その他である。

✓本調査の回答者は職場に関する関心が高い層であり、高めのカミングアウト率になっていると思われる。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

職場のLGBT施策（実際）



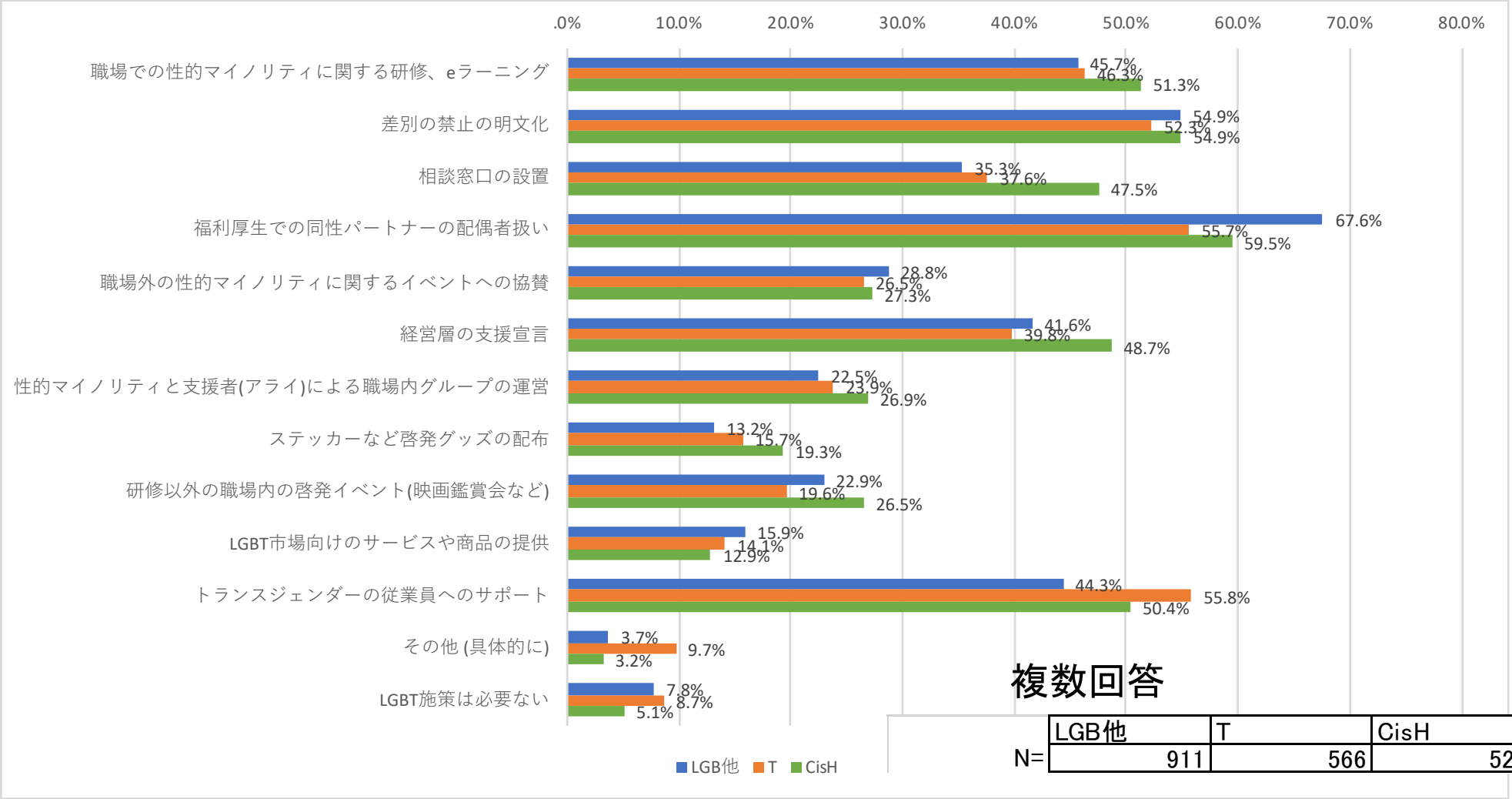
複数回答

N=	LGB他	T	CisH
	911	566	528

✓ LGBT施策が何もないという回答が70%以上だが、研修等は増えている（2016年調査では、勉強会などの啓発イベントがあると回答した LGB他 7.6%,T 5.9%）

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

職場のLGBT施策（希望）



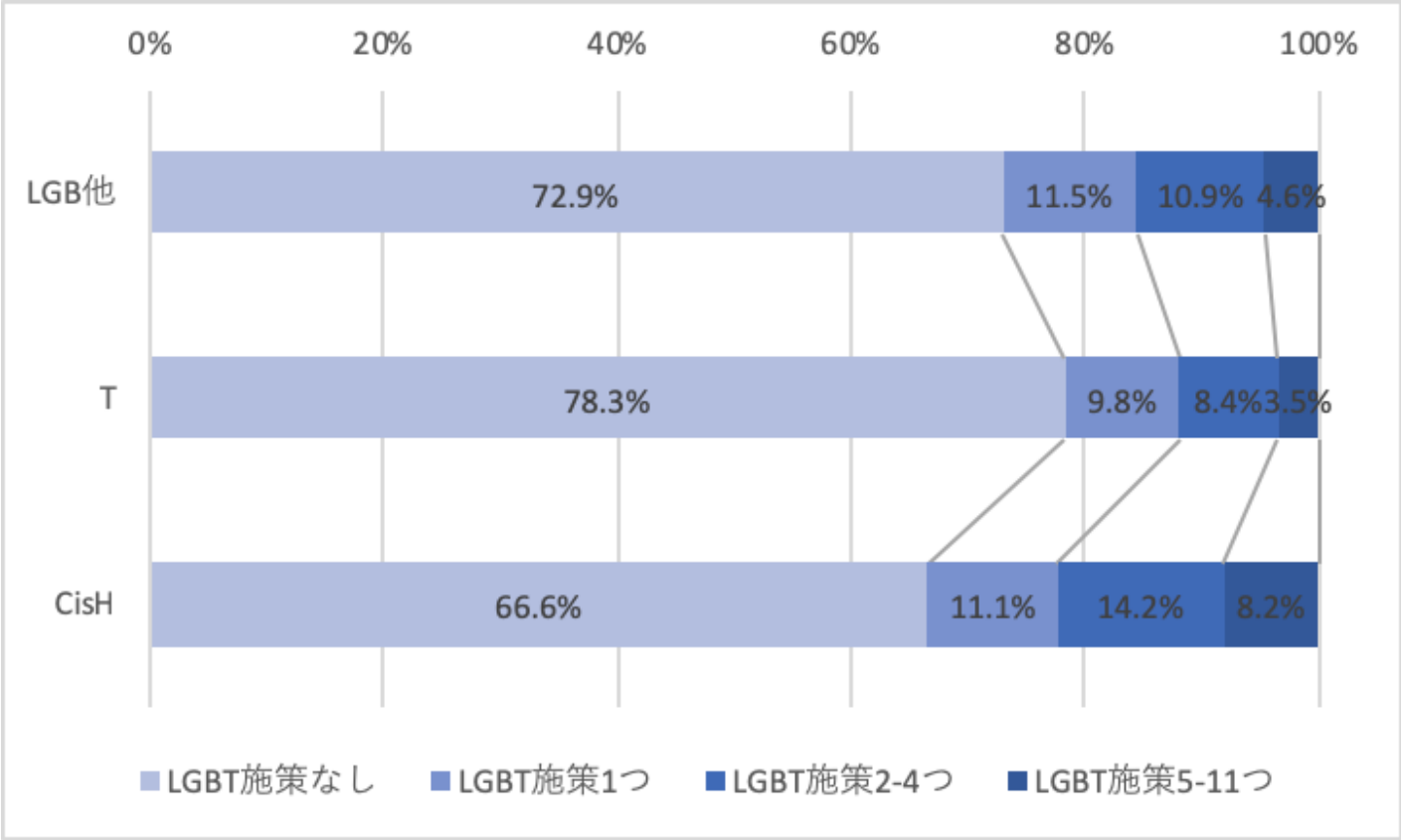
複数回答

N=	LGB他	T	CisH
	911	566	528

✓ 同性パートナーの配偶者扱い、差別禁止の明文化、トランスジェンダー従業員へのサポート、研修・eラーニング等のニーズが高い

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

職場のLGBT施策の数

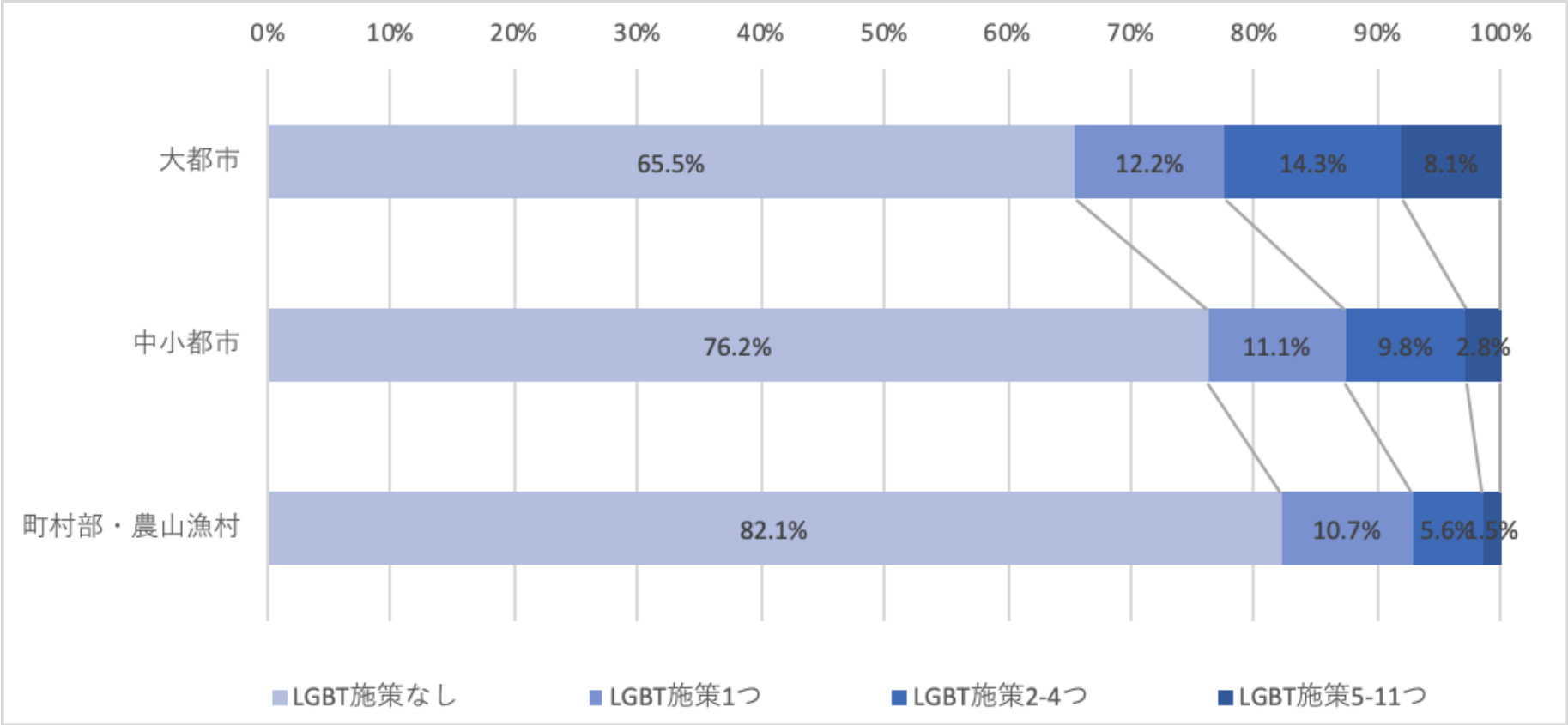


	LGB他	T	CisH
N=	990	622	650

✓ LGB他の72.9%、Tの78.3%が、職場でLGBT施策がまったくないと回答している

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

居住地 x LGBT施策の数

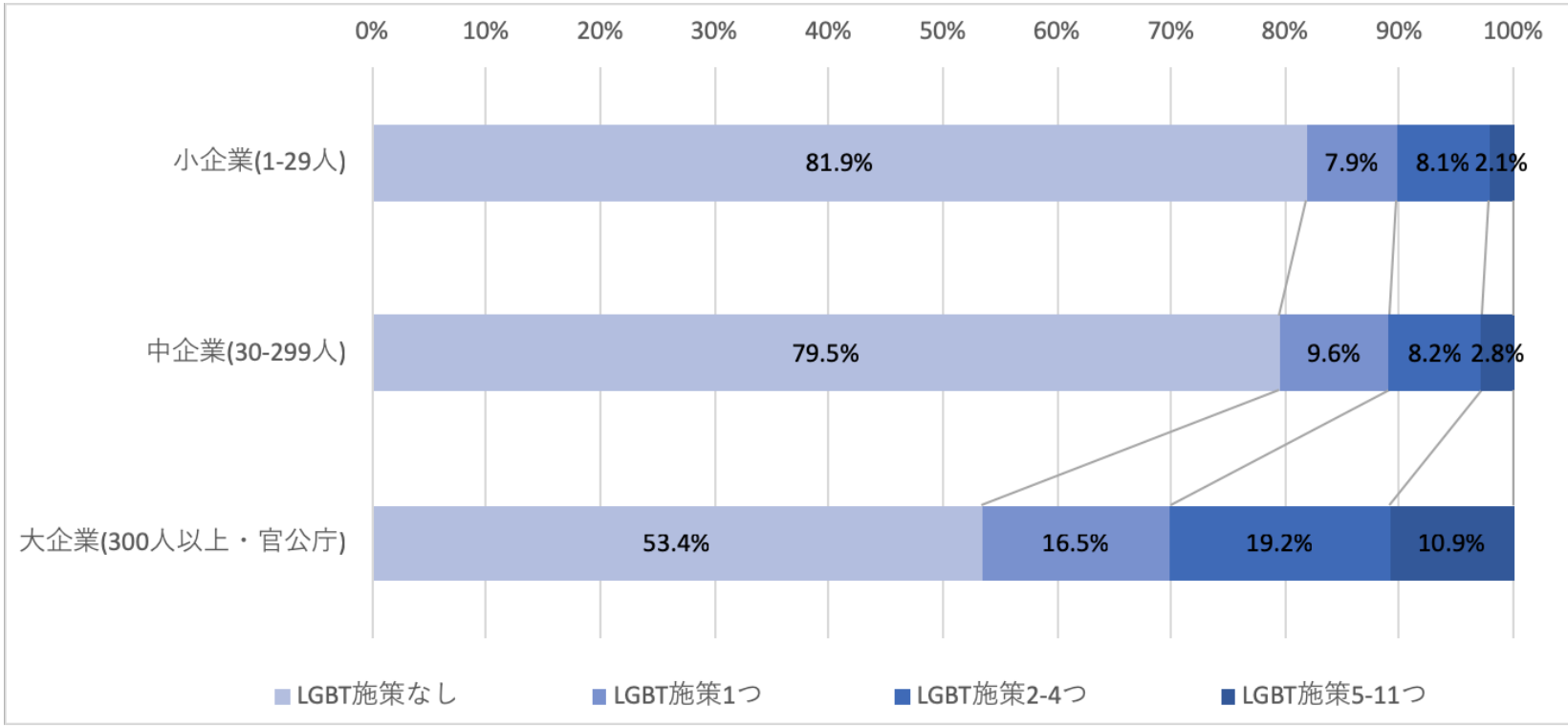


	大都市	中小都市	町村部・農山漁村
N=	1,126	602	196

✓ 都市部の方がLGBT施策を実施している職場が多い

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

企業規模 x LGBT施策の数

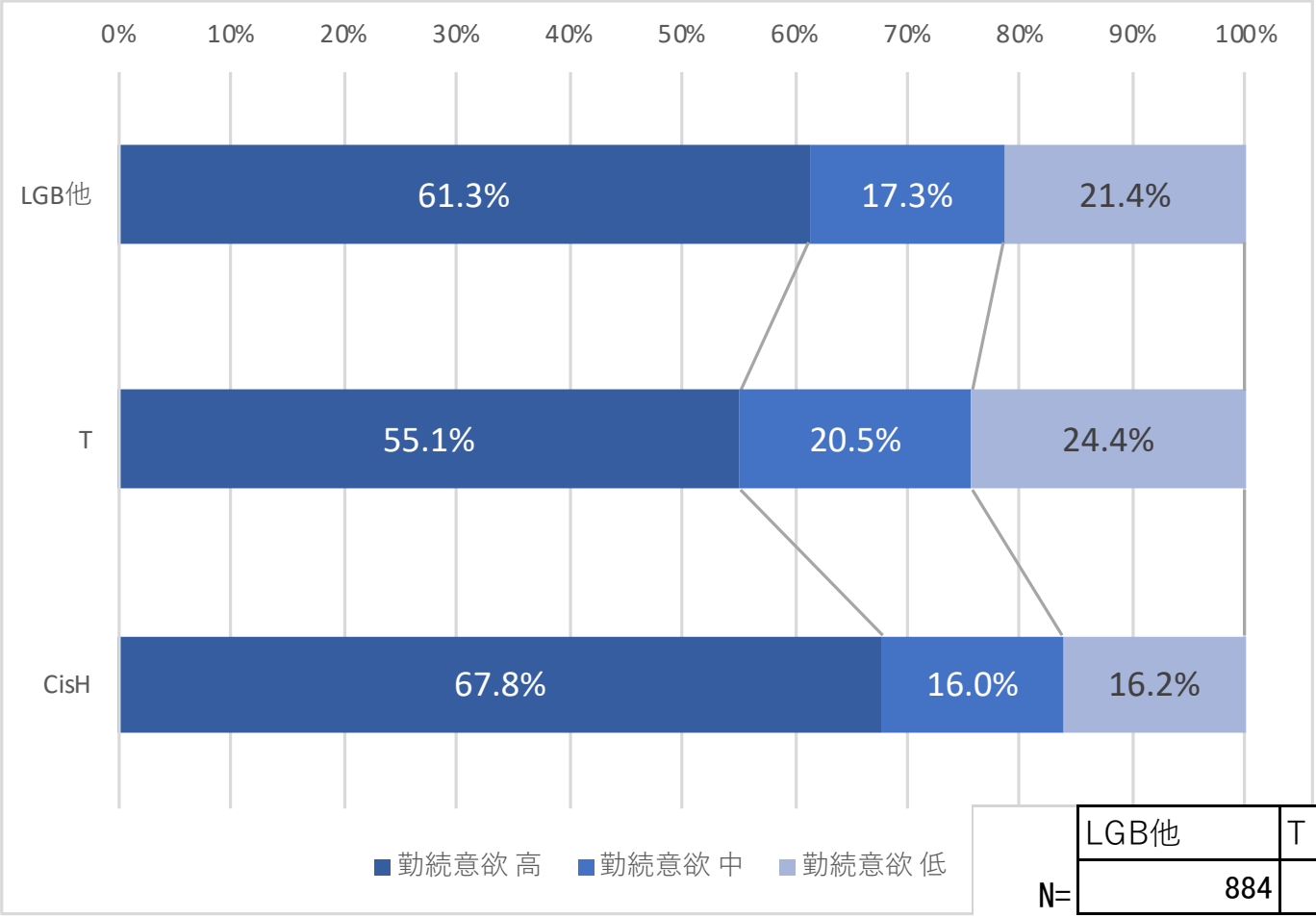


	小企業(1-29人)	中企業(30-299人)	大企業(300人以上・官公庁)
N=	420	429	764

✓ 企業規模が大きい方がLGBT施策を実施している職場が多い

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

勤続意欲

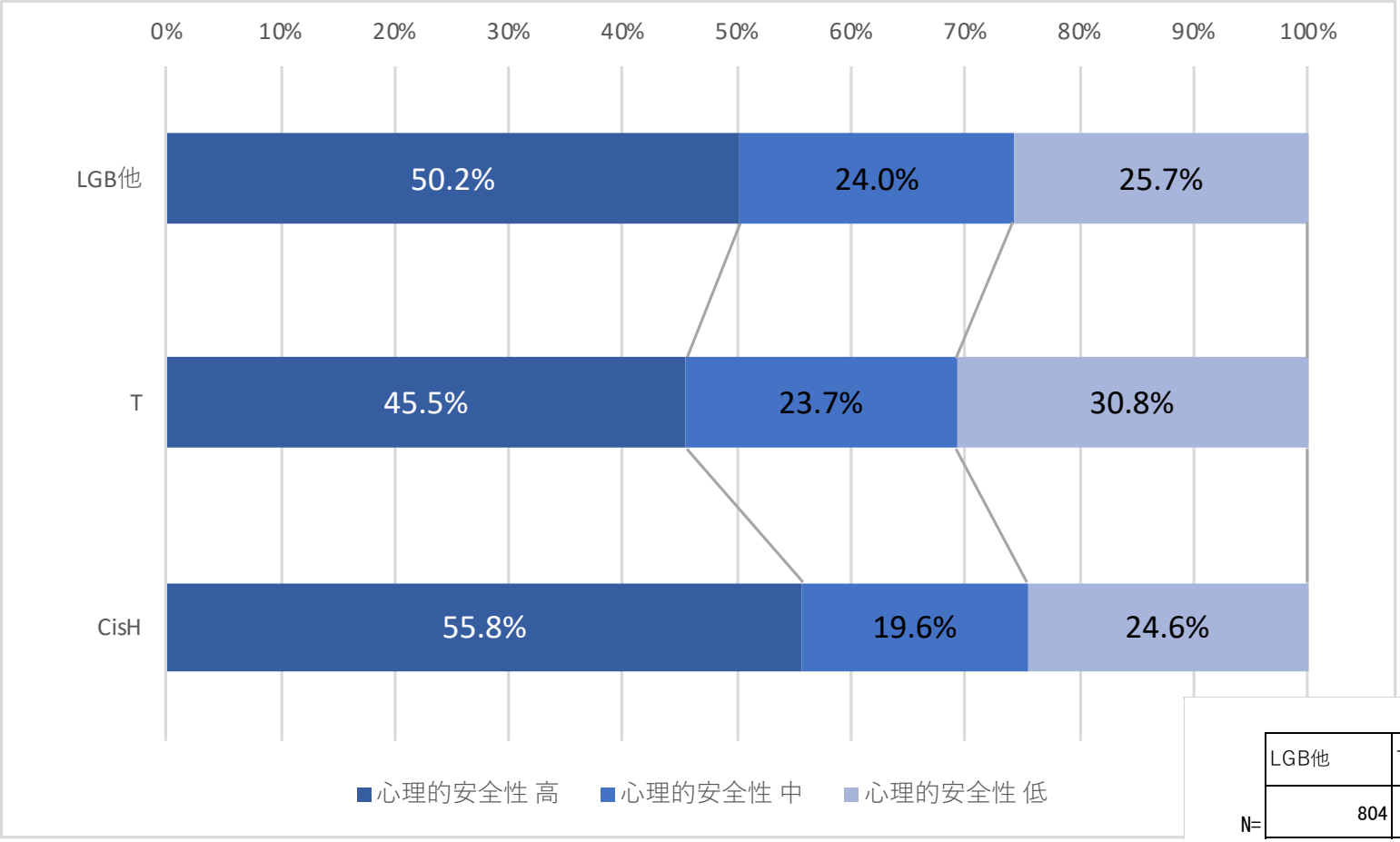


N=	LGB他	T	CisH
	884	546	512

✓ LGB他/Tの方が勤続意欲が低め。特にトランスジェンダーで低い傾向。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

心理的安全性

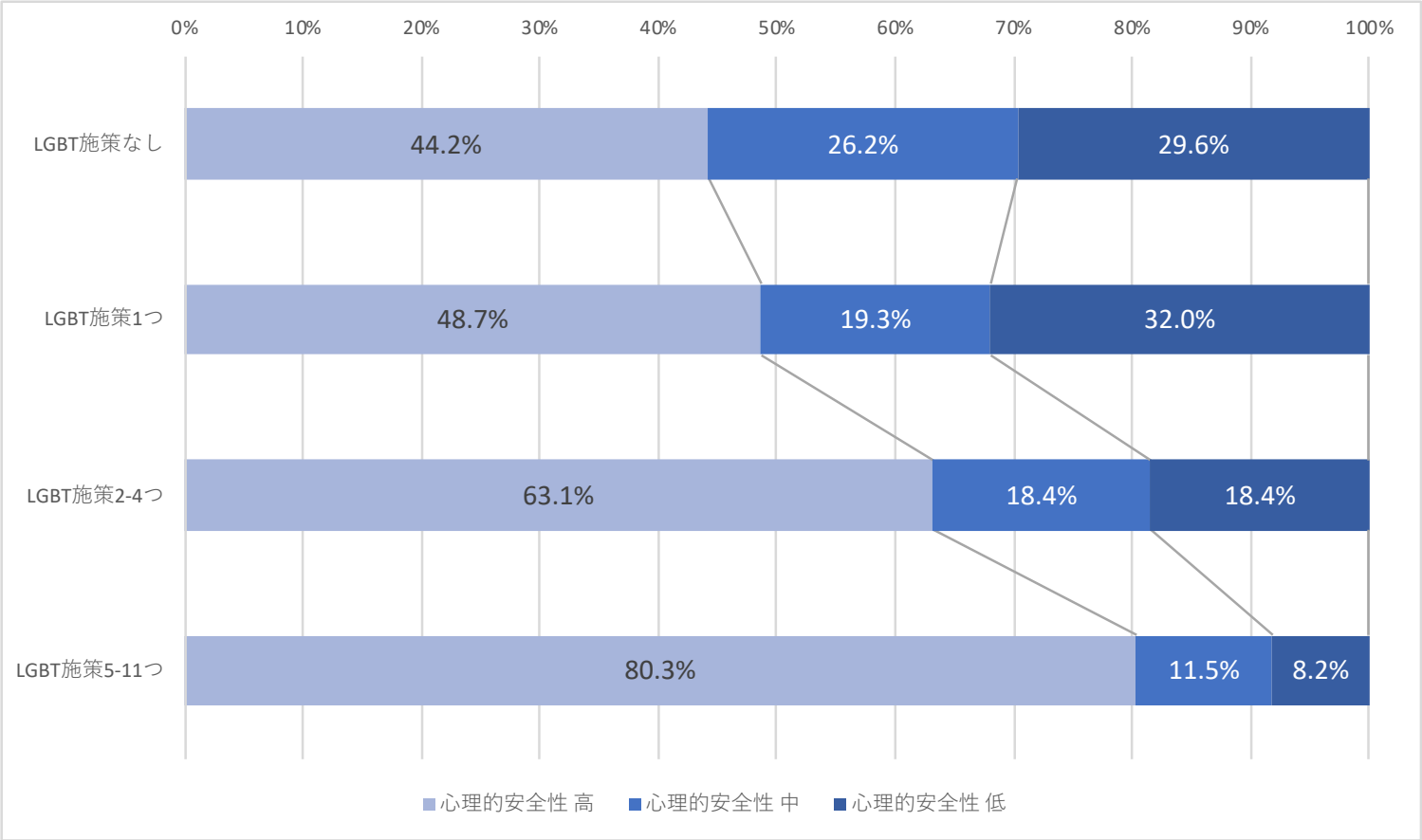


	LGB他	T	CisH
N=	804	503	443

✓ LGB他/T、特にトランスジェンダーで、心理的安全性が低いと回答する人が多い。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

LGBT施策の数 x 心理的安全性



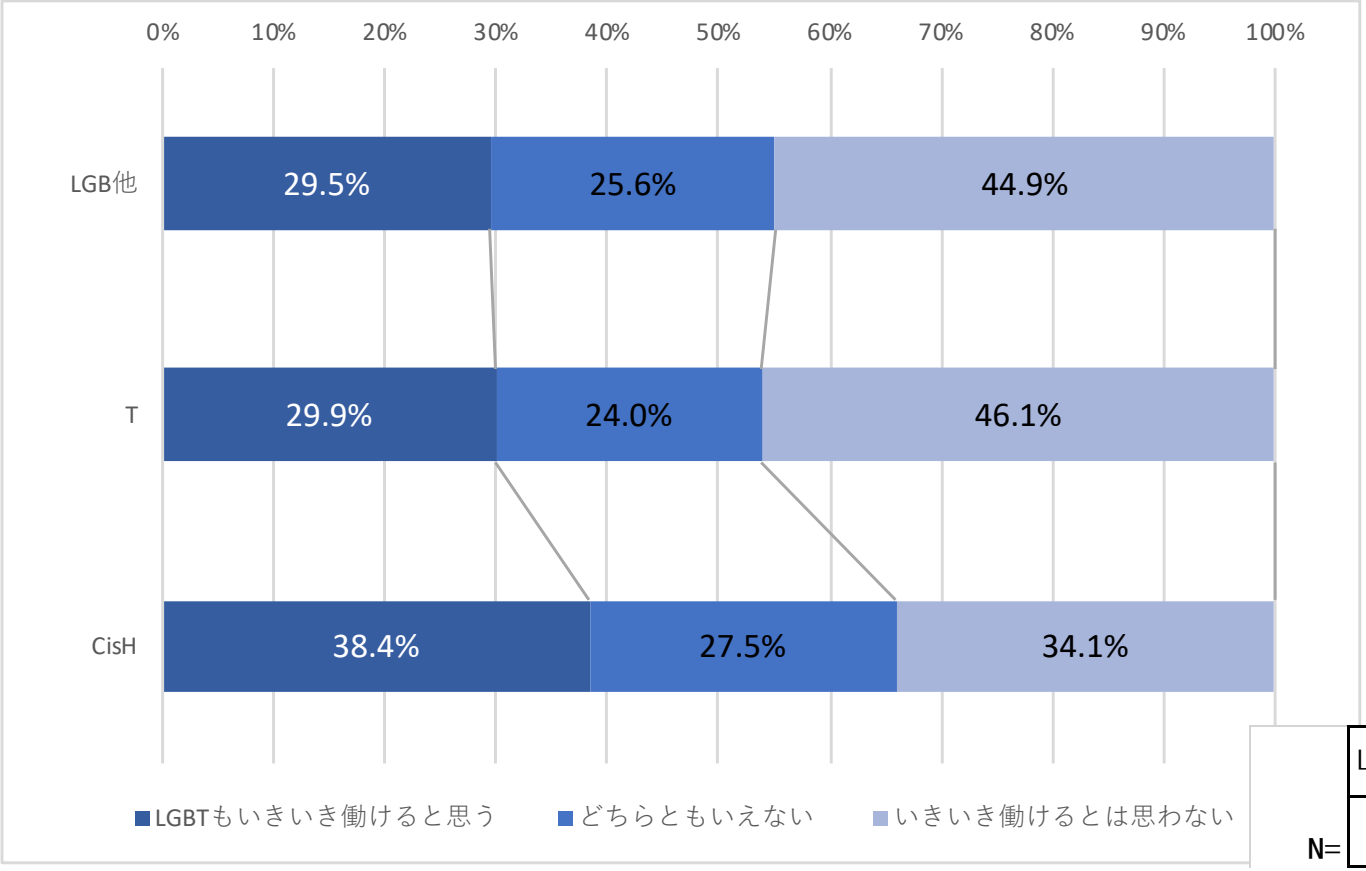
	LGBT施策なし	LGBT施策1つ	LGBT施策2-4つ	LGBT施策5-11つ
N=	955	150	141	61

✓ LGBT施策を実施してる数が多い職場の方が、心理的安全性が高い。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

LGBTの働きやすさ

設問： “性的マイノリティもいきいきと働ける職場だと思いますか”

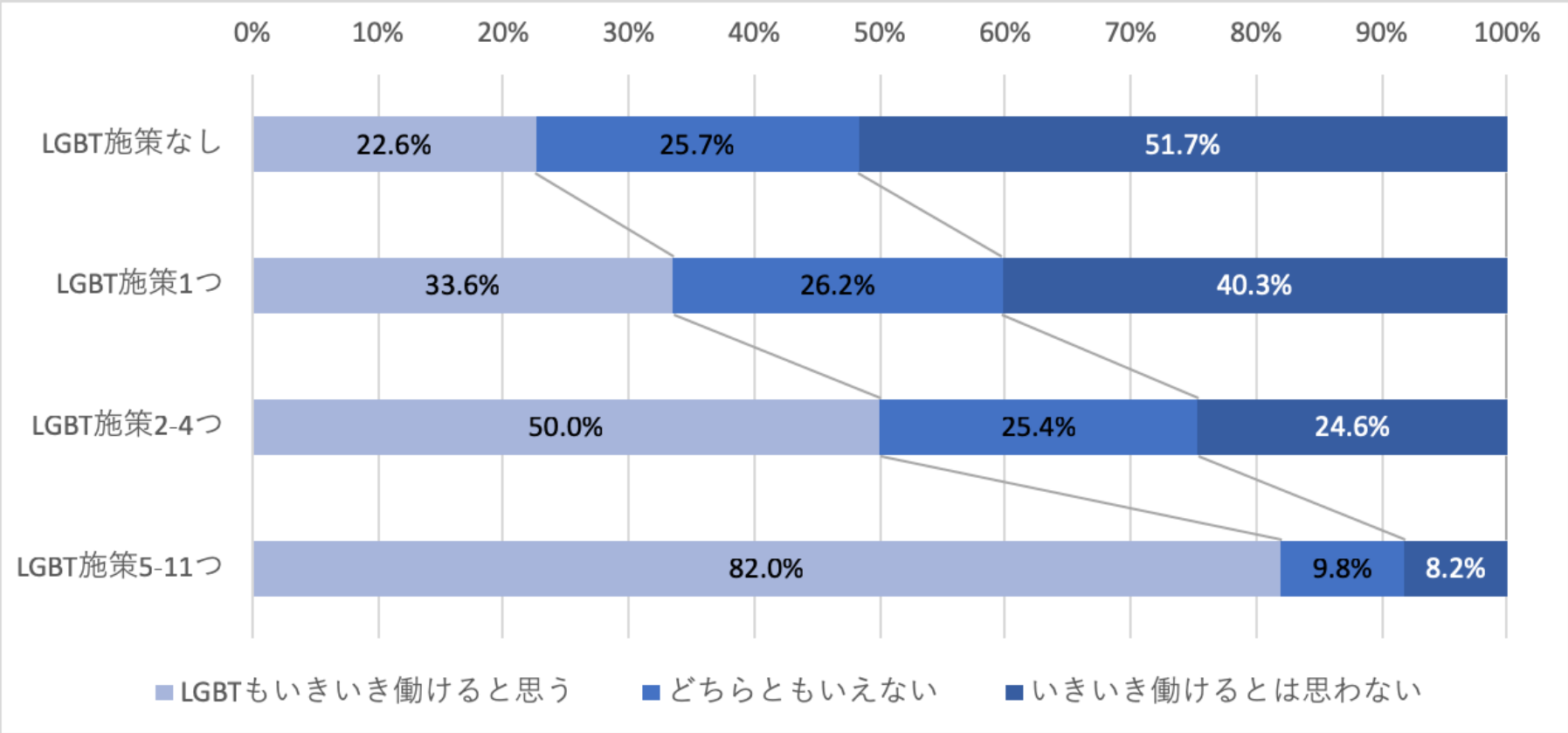


	LGB他	T	CisH
N=	797	501	440

✓ LGBT、特にTの方が、職場環境に厳しさを感じている。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

LGBT施策の数 x LGBTの働きやすさ

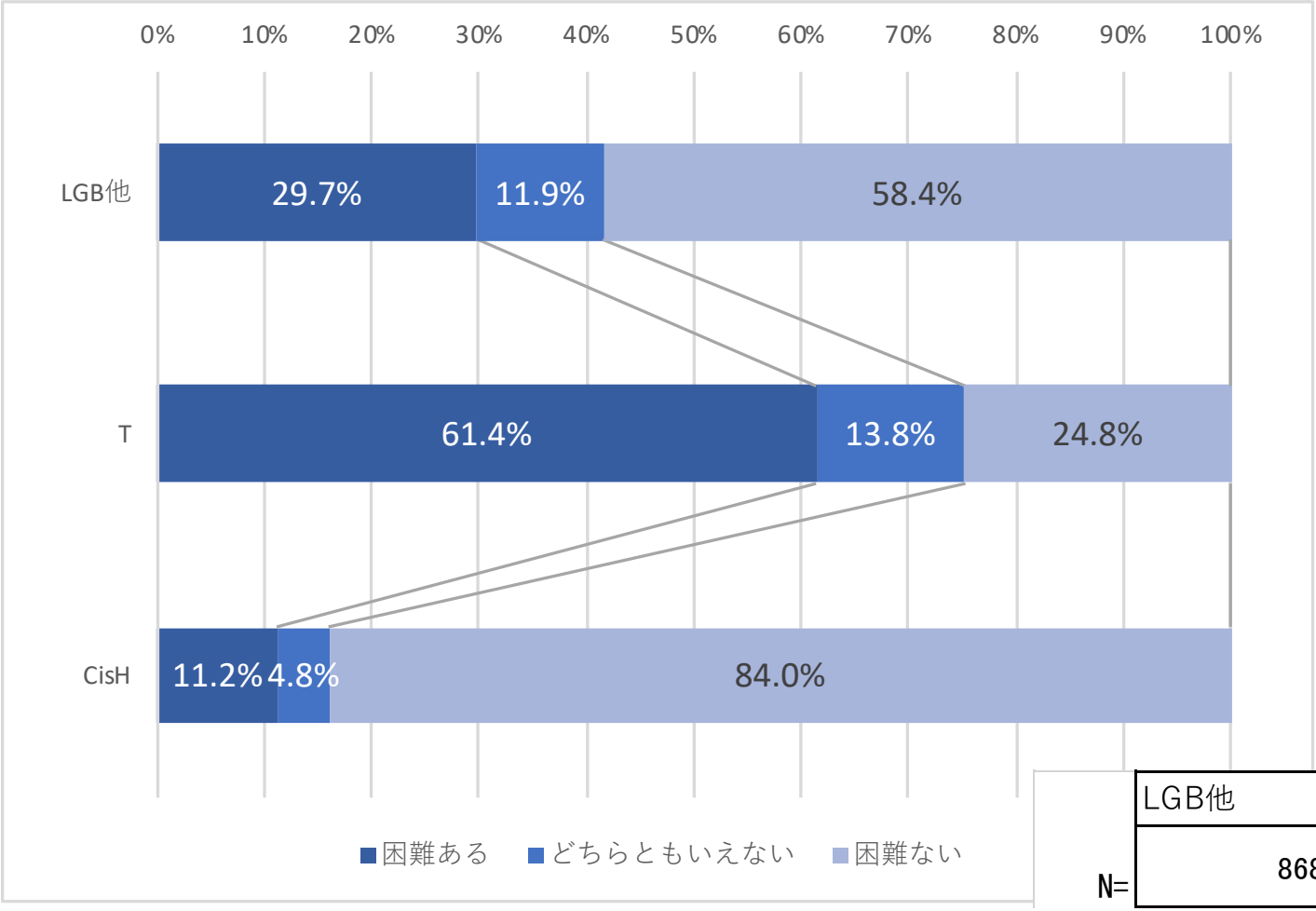


	LGBT施策なし	LGBT施策1つ	LGBT施策2-4つ	LGBT施策5-11つ
N=	946	149	142	61

✓ LGBT施策を実施してる数が多い職場の方が、LGBTもいきいきと働けると思う人が多い。（心理的安全性より連関が強い）

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

求職時の困難



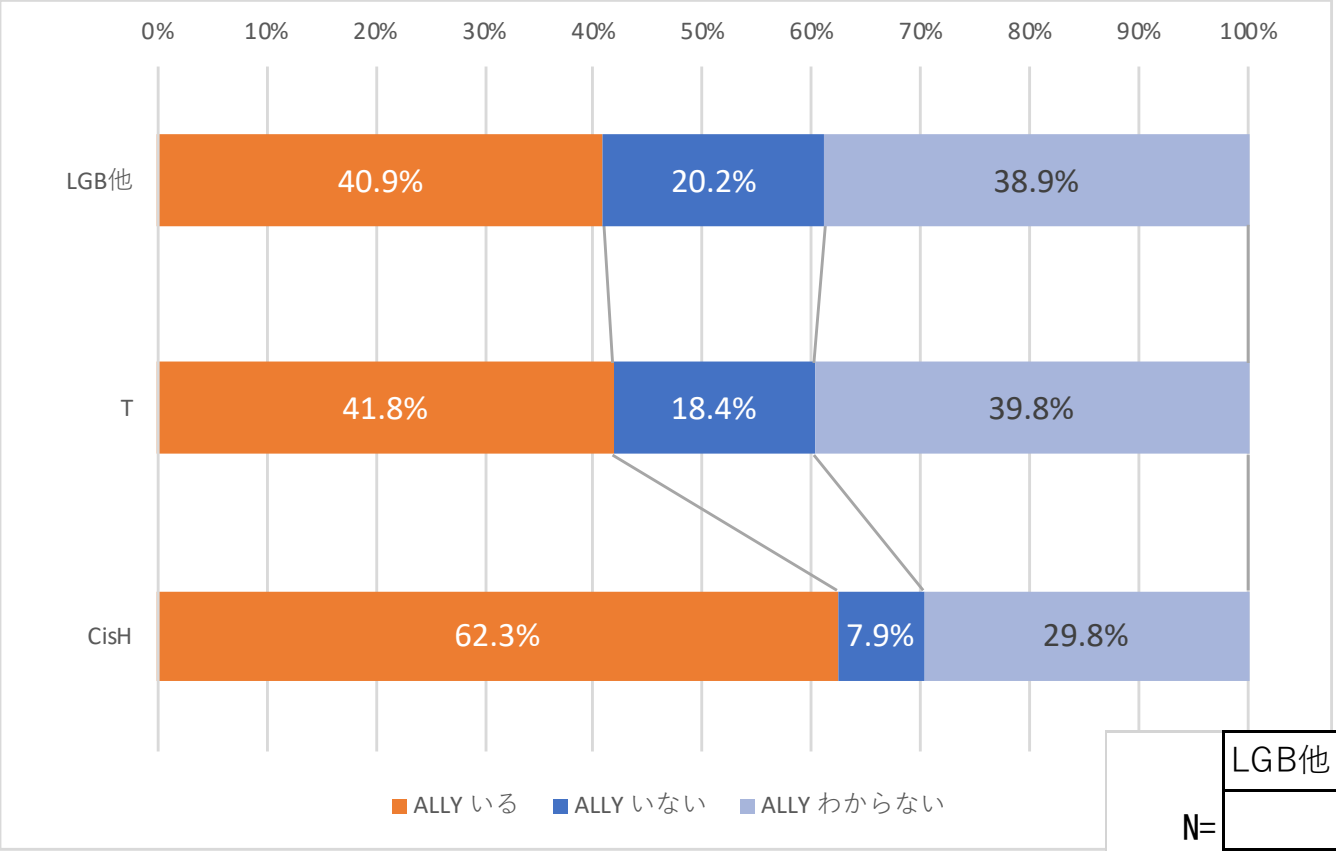
	LGB他	T	CisH
N=	868	549	499

✓ 2016年調査では LGB 44%、T 70% が困難があると回答していたので、やや減少。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

職場のALLYの存在

設問：“あなたの現在の職場には、性的マイノリティについて理解し、支援する人(アライ)がいるか、お答 えください。自分自身がアライである場合も含みます。”

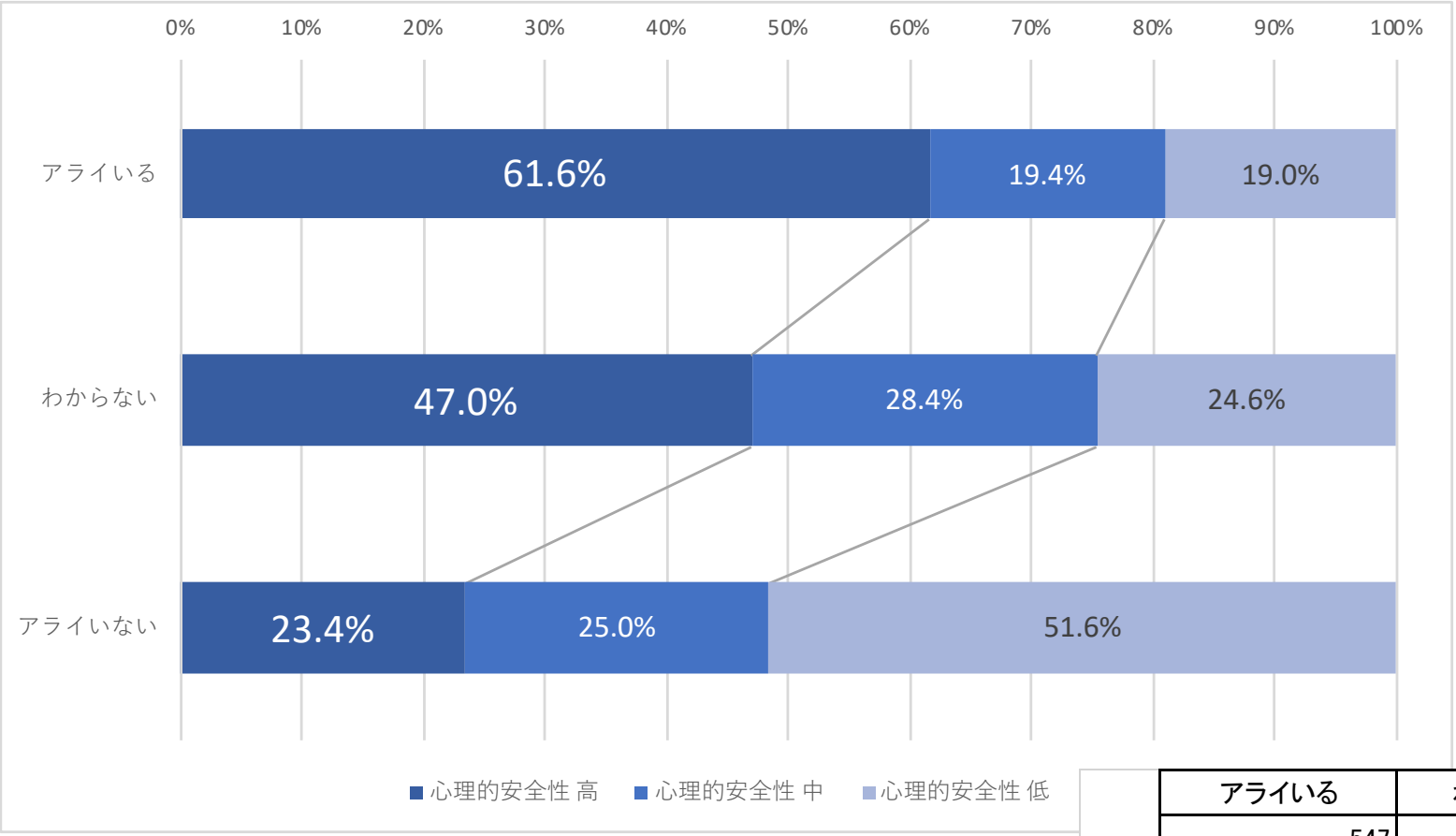


	LGB他	T	CisH
N=	880	548	507

✓ LGB他の40.9%、Tの41.8%が、ALLYがいることを認識している。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

ALLY x 心理的安全性

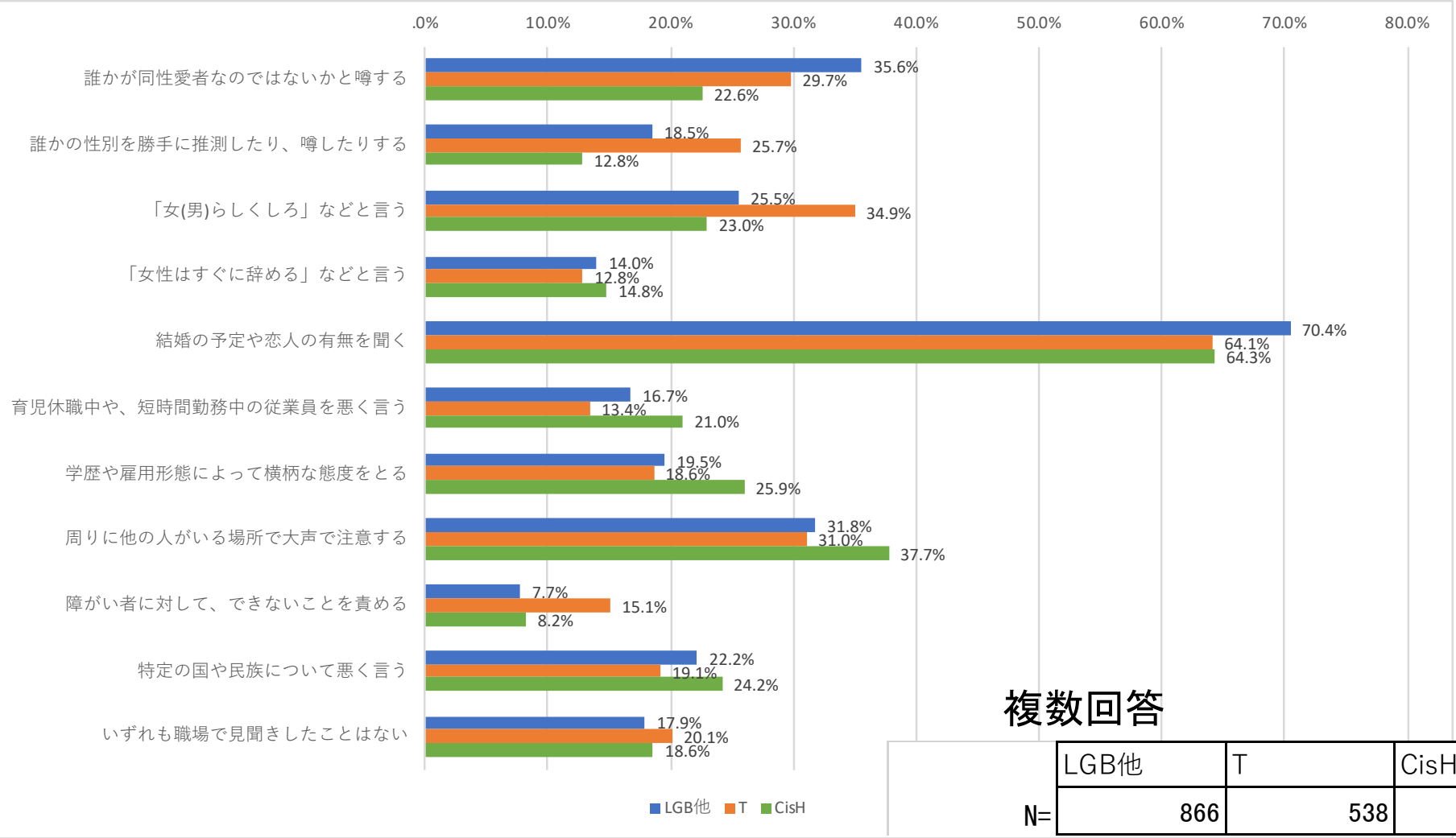


	アライいる	わからない	アライいない
N=	547	500	256

✓ ALLYがいると認識しているLGBTの方が、心理的安全性が高い。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

職場でのハラスメント



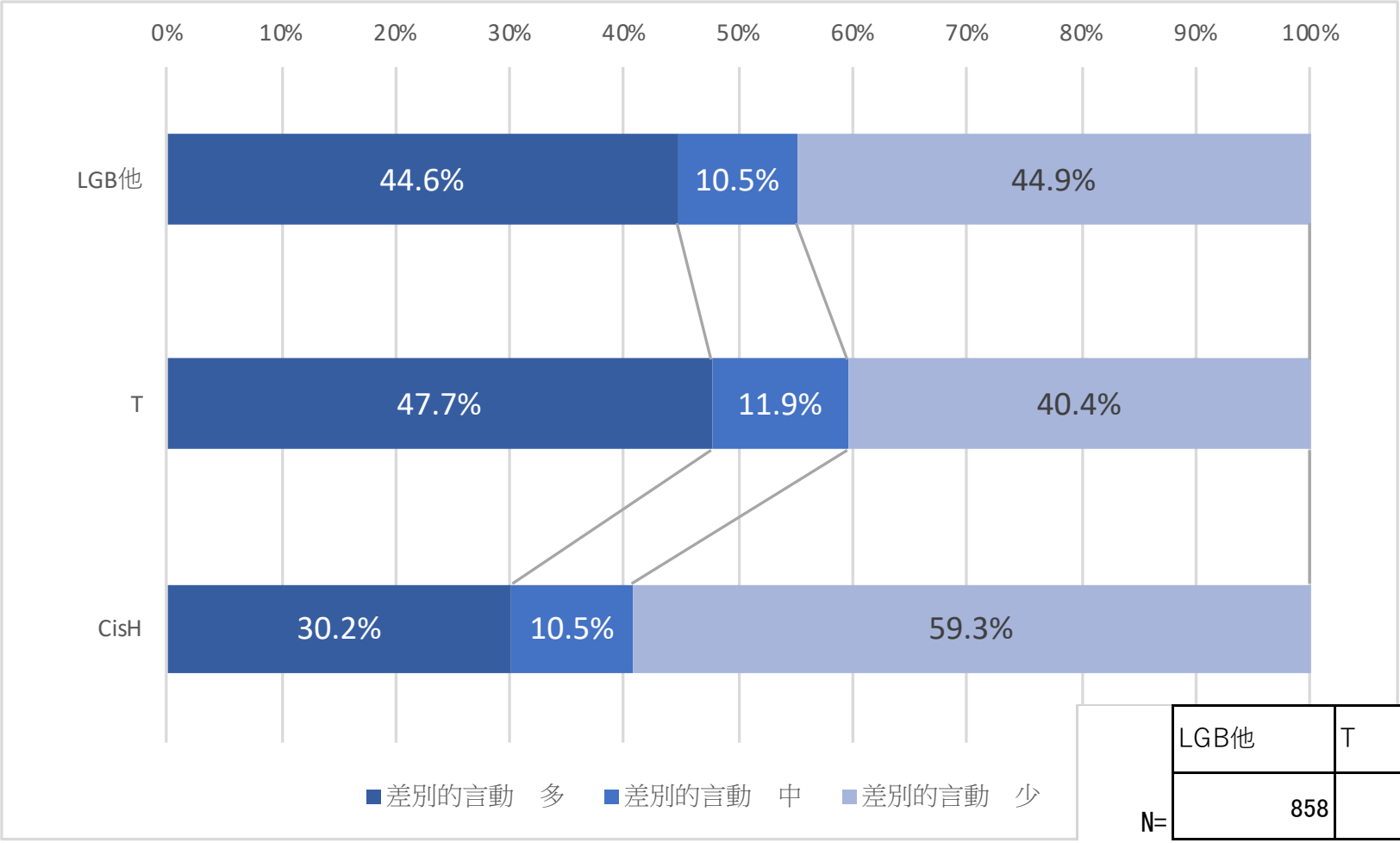
複数回答

	LGB他	T	CisH
N=	866	538	501

✓ 男女、SOGIに関連したハラスメントは、LGB他/Tの方が見聞きしている人が多い。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

SOGIに関する差別的言動

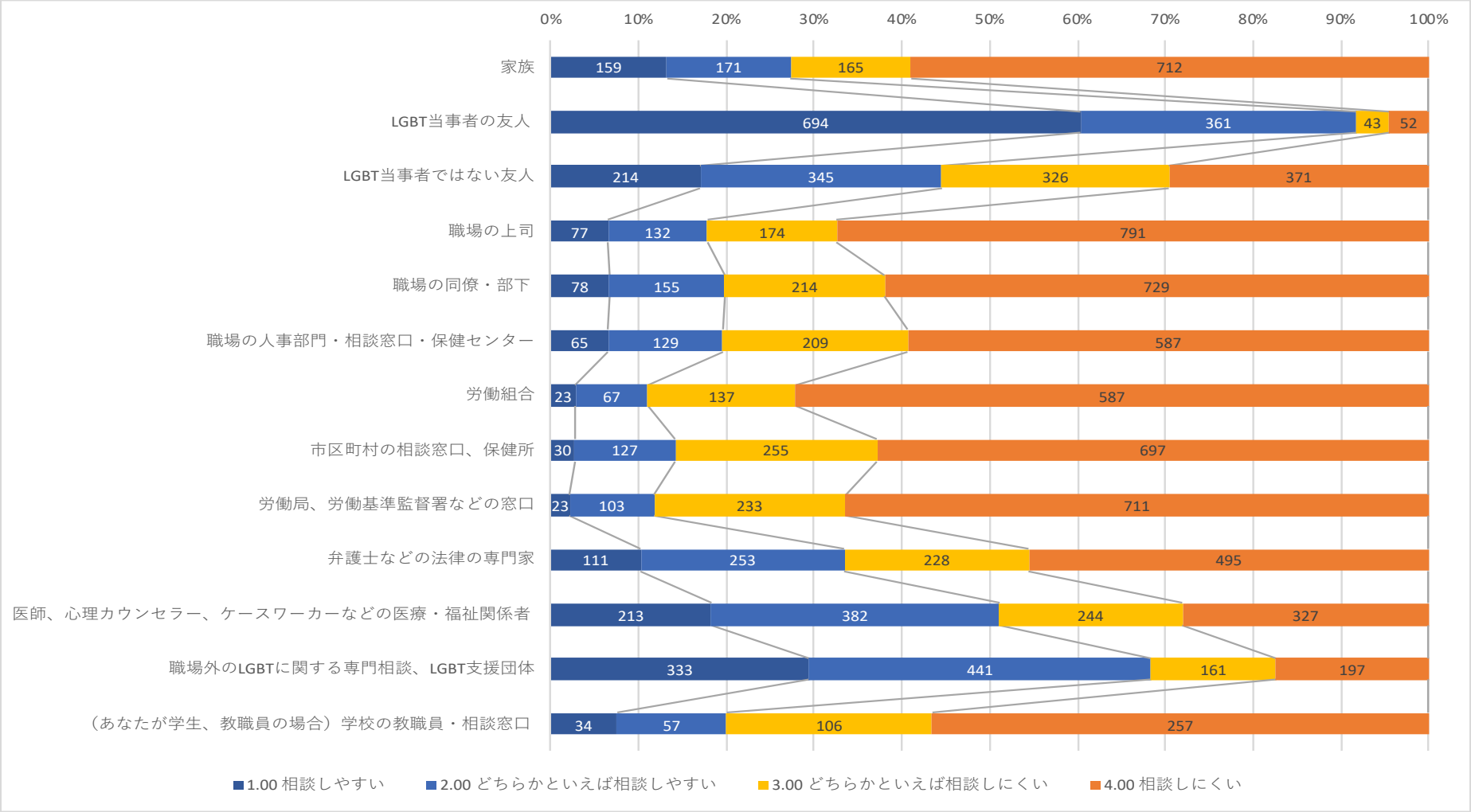


	LGB他	T	CisH
N=	858	537	484

✓ LGB他の44.6%、Tの47.7%が、差別的言動が頻繁にあると回答している。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

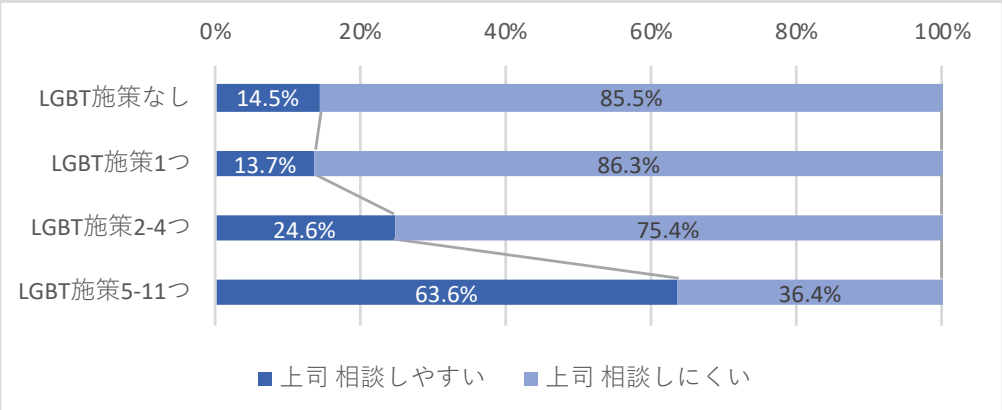
相談先ごとの相談しやすさ



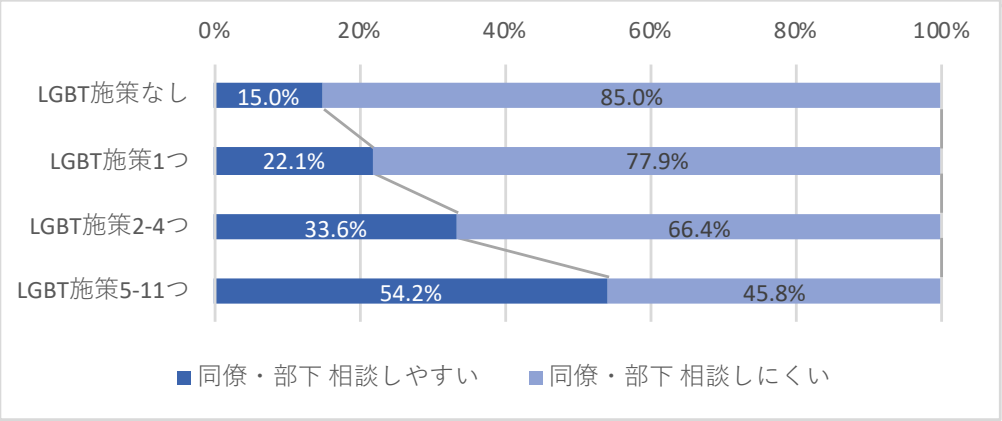
✓ “当事者の友人”“職場外の相談窓口”が相談しやすいと答える人が多い
（LGBT 454人～1,256人：選択肢ごとに回答人数が異なる）

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

LGBT施策の数 x 相談しやすさ



	LGBT施策なし	LGBT施策1つ	LGBT施策2-4つ	LGBT施策5-11つ
N=	862	131	126	55

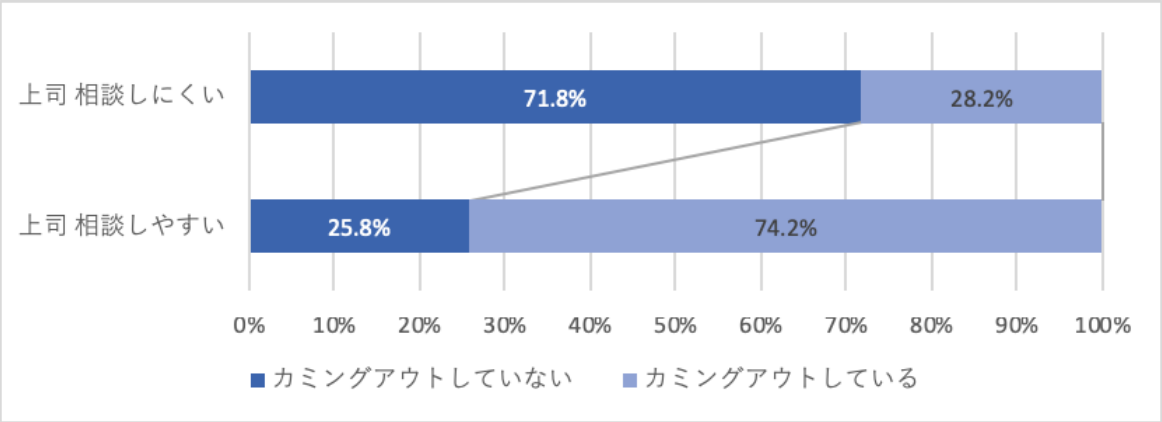


	LGBT施策なし	LGBT施策1つ	LGBT施策2-4つ	LGBT施策5-11つ
N=	853	136	128	59

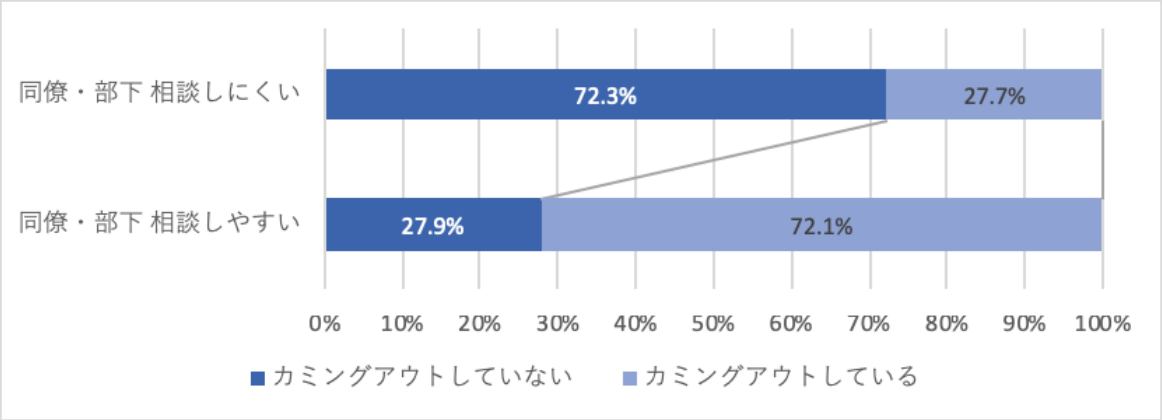
- ✓ LGBT施策の実施数が増えるほど、相談しやすいと感じるLGBTが増える。
- ✓ 上司の場合は施策 2-4つで変化、同僚・部下の場合は1つでも変化。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

相談しやすさ x カミングアウト



	上司 相談しやすい	上司 相談しにくい
N=	209	965

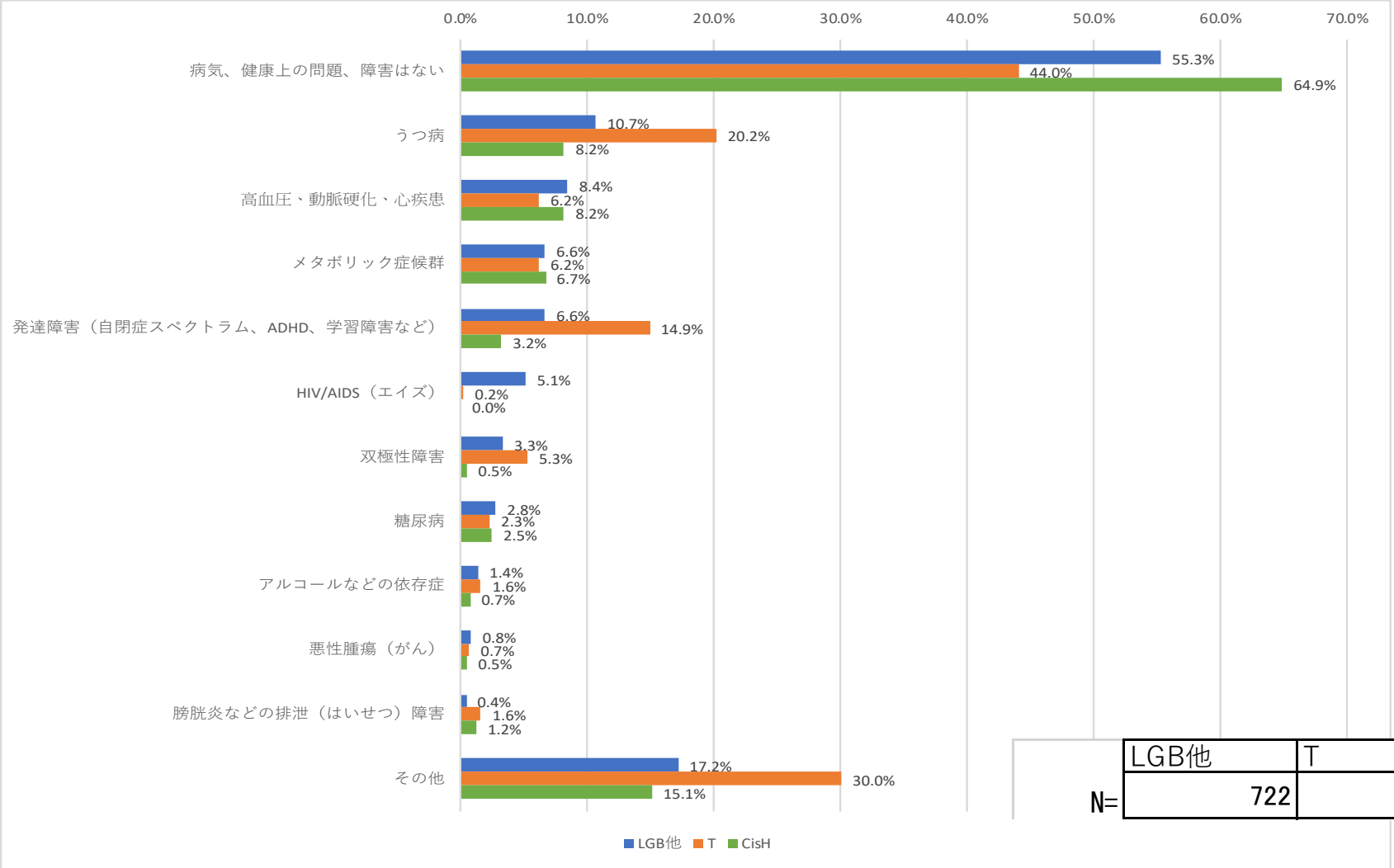


	同僚・部下 相談しやすい	同僚・部下 相談しにくい
N=	233	943

✓ カミングアウトしている方が、相談しやすい人が多い。上司、同僚・部下で、傾向は変わらない。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

病気・健康上の問題・障害

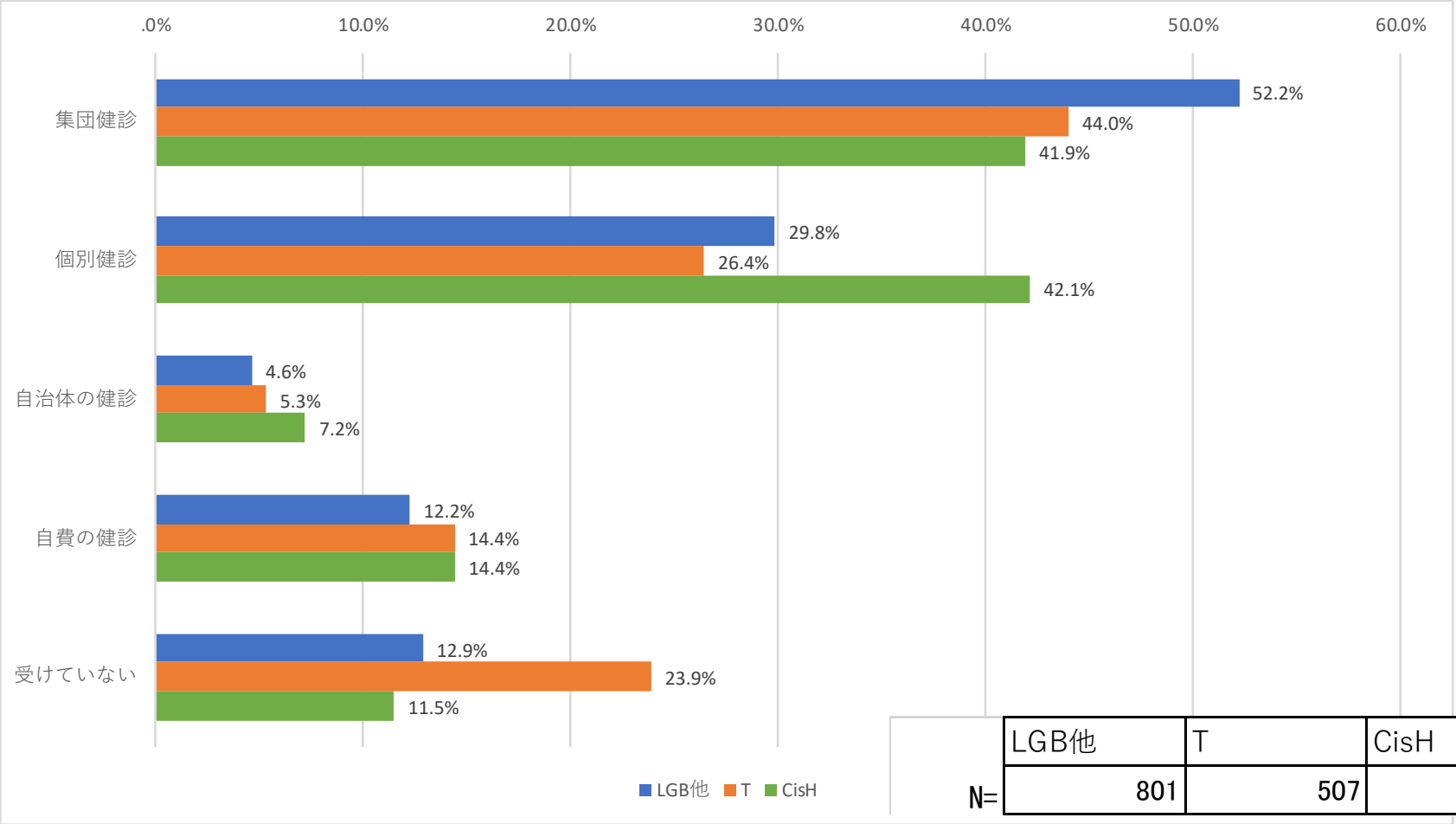


	LGB他	T	CisH
N=	722	436	404

✓ 心身の健康に関して、本調査では詳細を聞いておらず、さらなる調査が必要である。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

健康診断

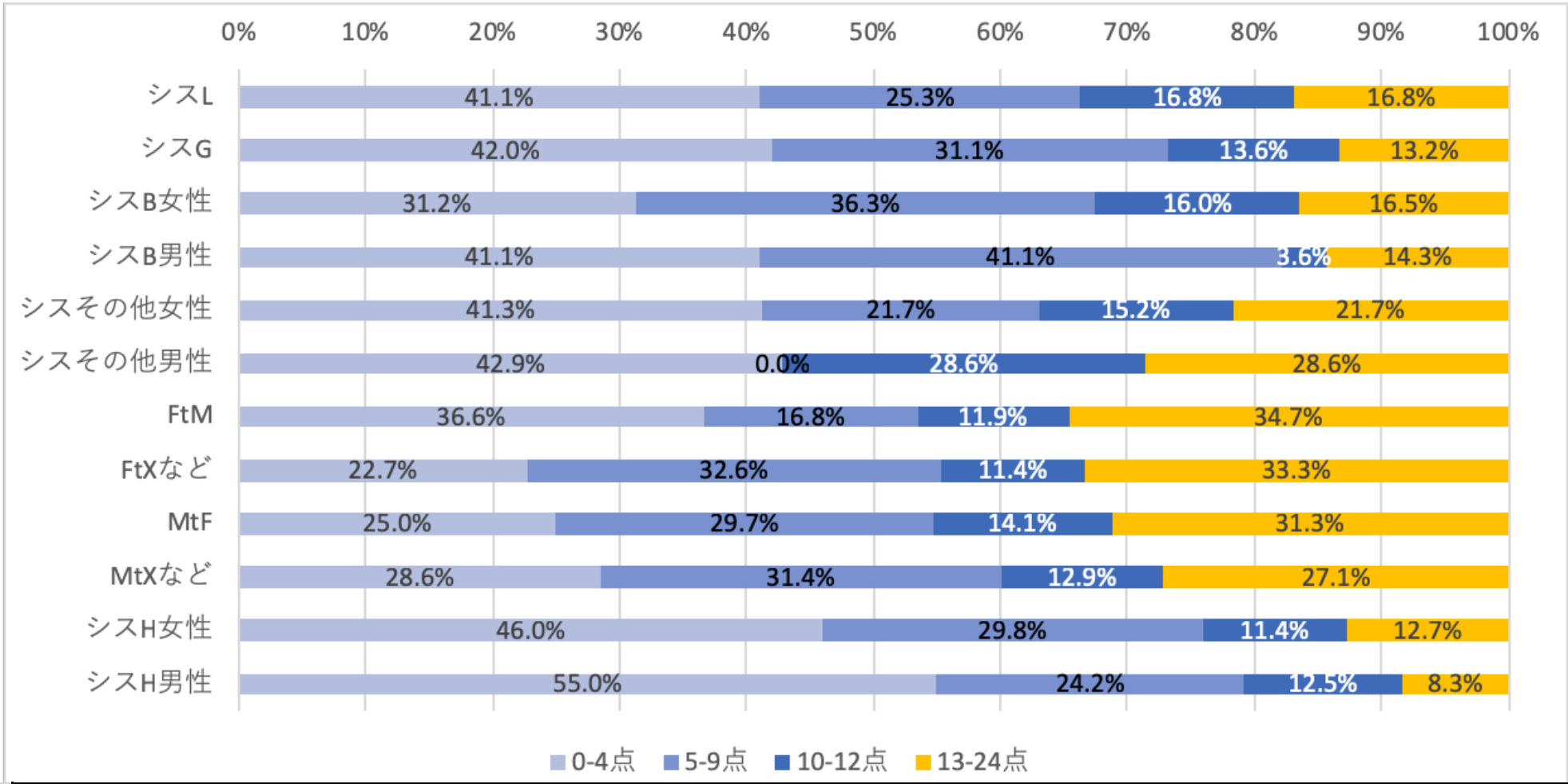


	LGB他	T	CisH
N=	801	507	444

✓ 健康診断を受診していないトランスジェンダーが23.9%。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

メンタルヘルス(K6)

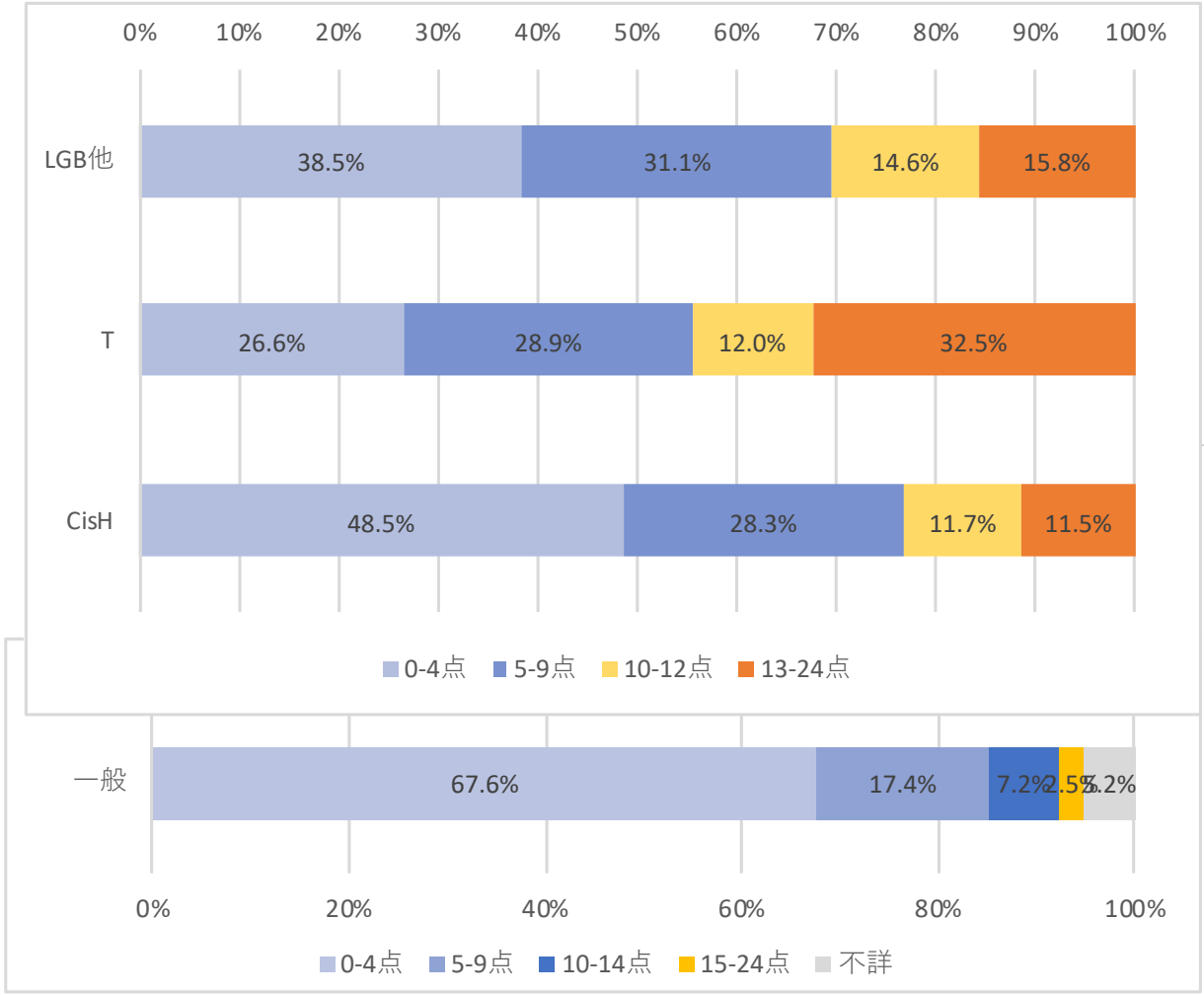


	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性
N=	190	257	237	56	46	7	101	273	64	70	315	120

✓LGBT、特にTで、13点以上の方が多く、ストレスが高く、メンタルヘルスの状況が悪い可能性あり

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

メンタルヘルス(K6)（一般との比較）



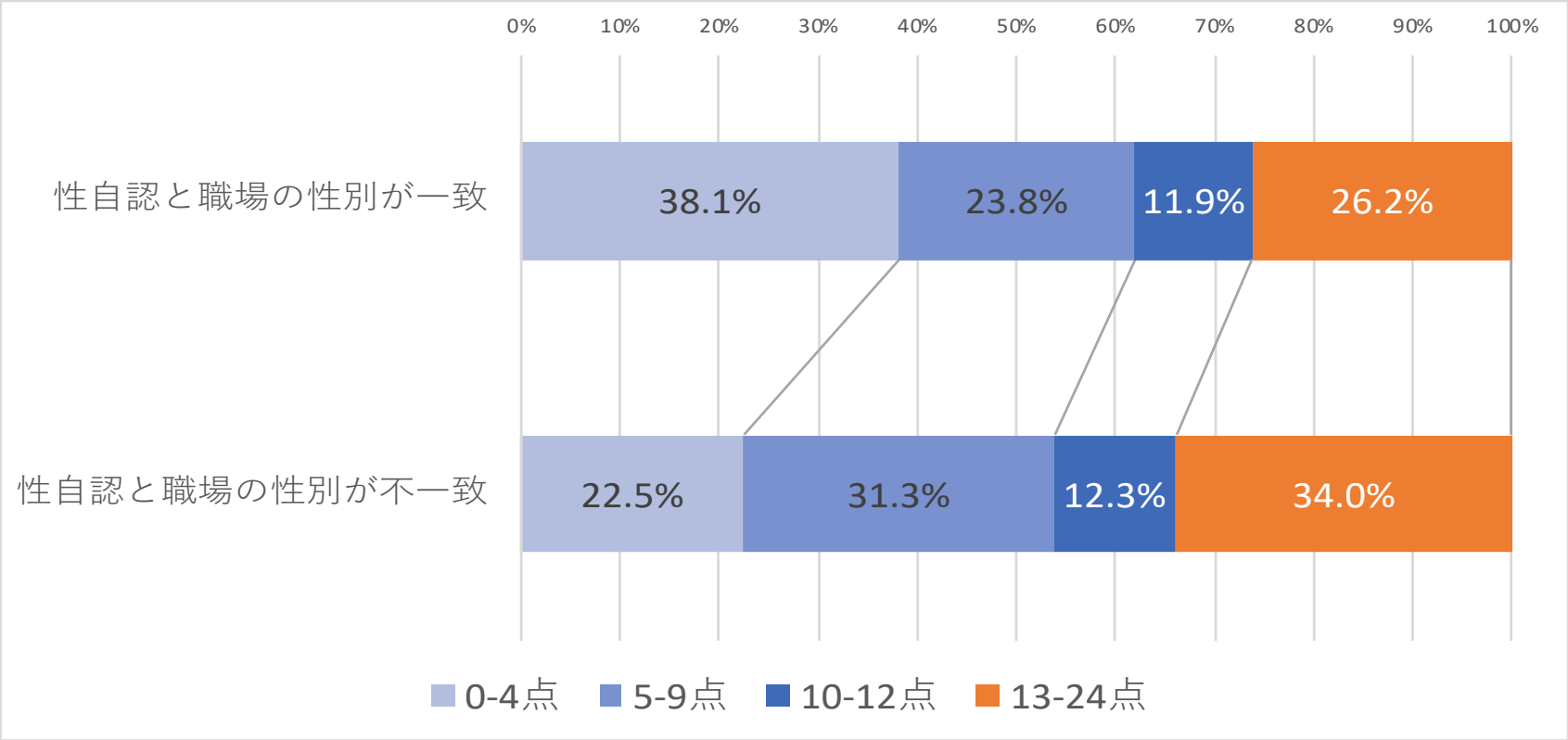
	LGB他	T	CisH
N=	793	508	435

一般 = 平成28年 国民生活基礎調査より
12歳以上のこころの健康

✓LGBT、特にTで、13点以上の方が多く、ストレスが高く、メンタルヘルスの状況が悪い可能性あり

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

職場の性別 x メンタルヘルス(K6)

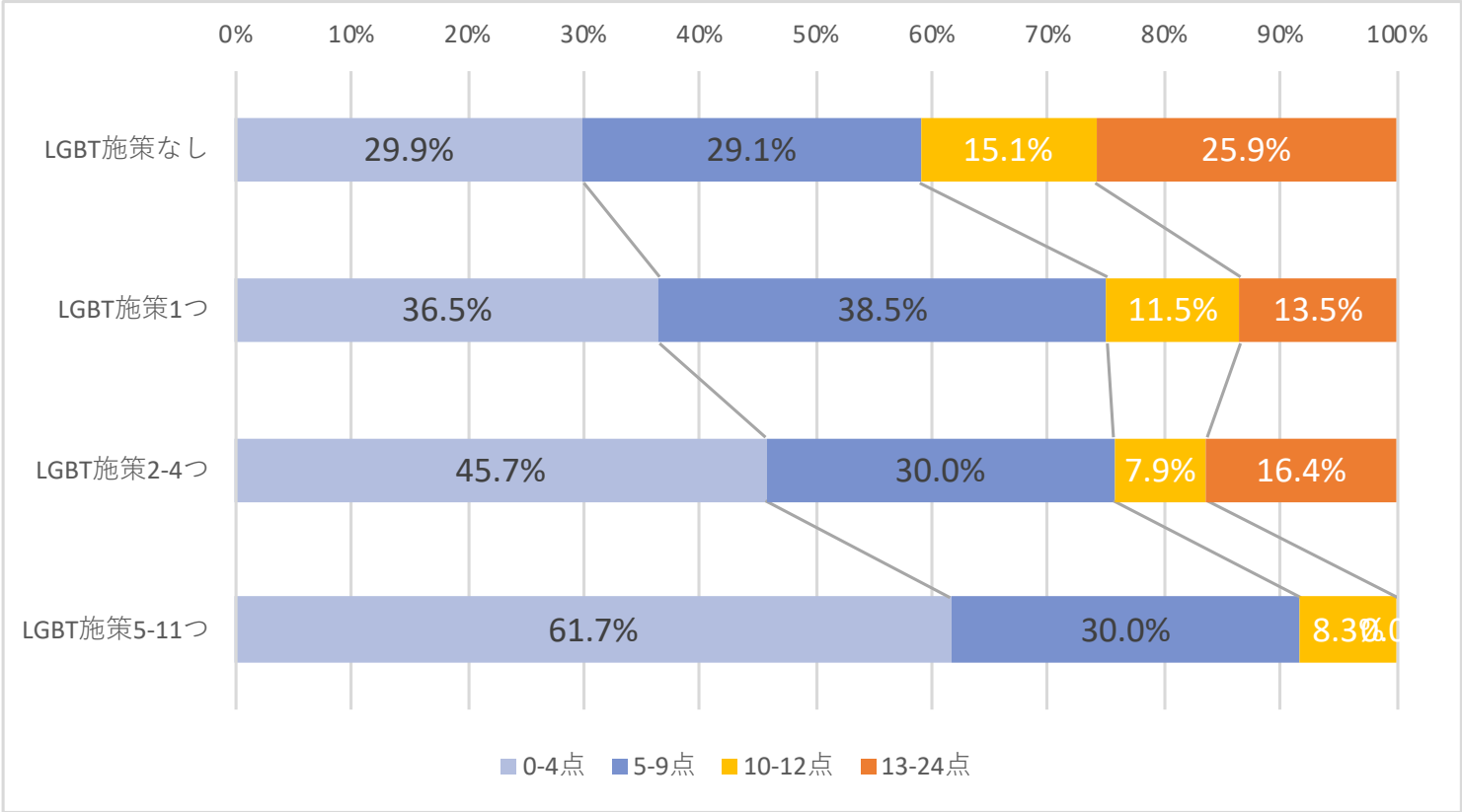


	性自認と職場の性別が一致	性自認と職場の性別が不一致
N=	126	374

✓ トランスジェンダーで、職場での性別が自認する性別と一致している方がメンタルヘルスが良好。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

LGBT施策の数 x メンタルヘルス(K6)

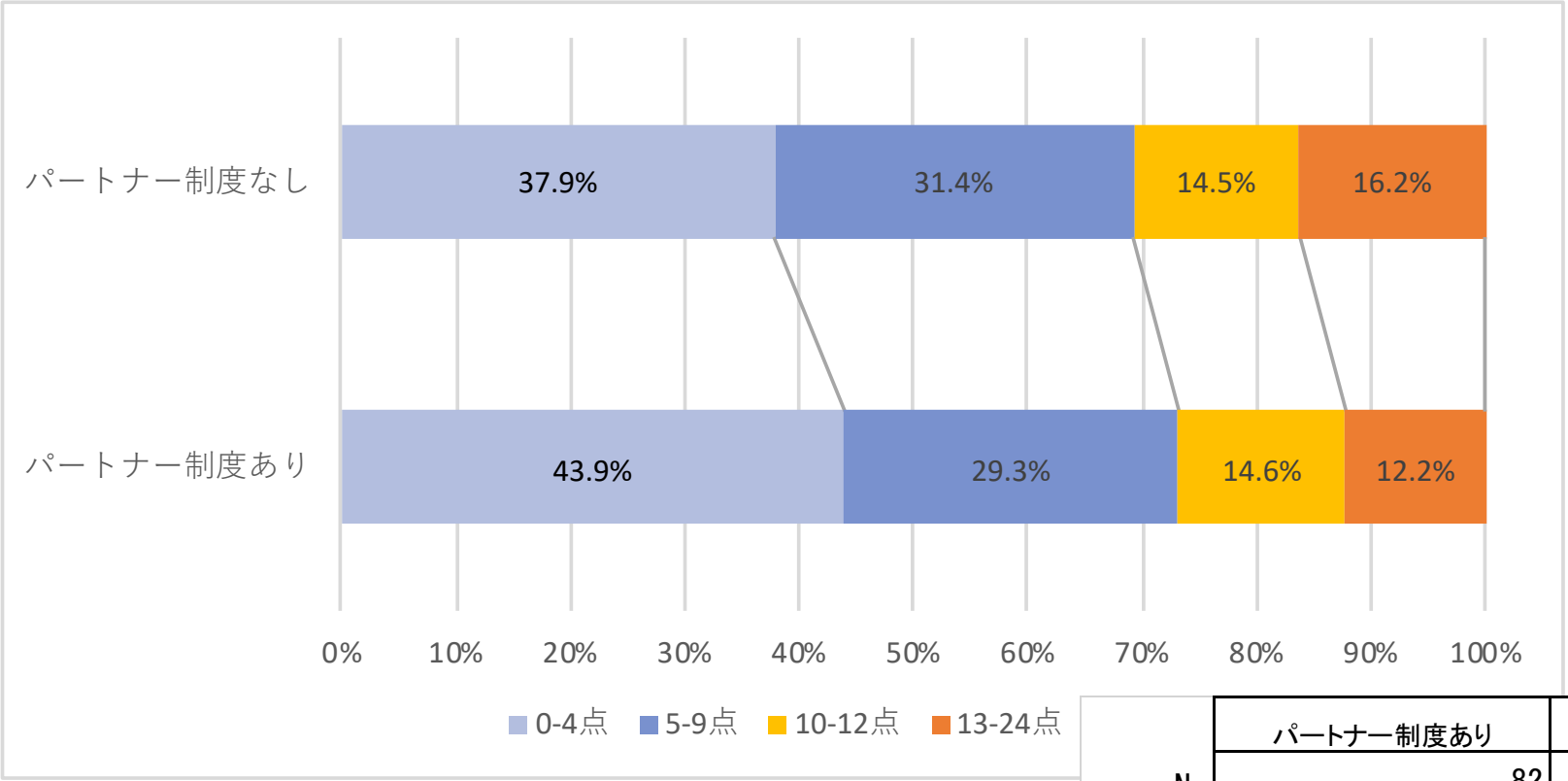


	LGBT施策なし	LGBT施策1つ	LGBT施策2-4つ	LGBT施策5-11つ
N=	953	148	140	60

✓ LGBT施策の実施数が多い職場の方が、K6 4点以下の方が多い。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

パートナー制度 x メンタルヘルス(K6)(LGB他)



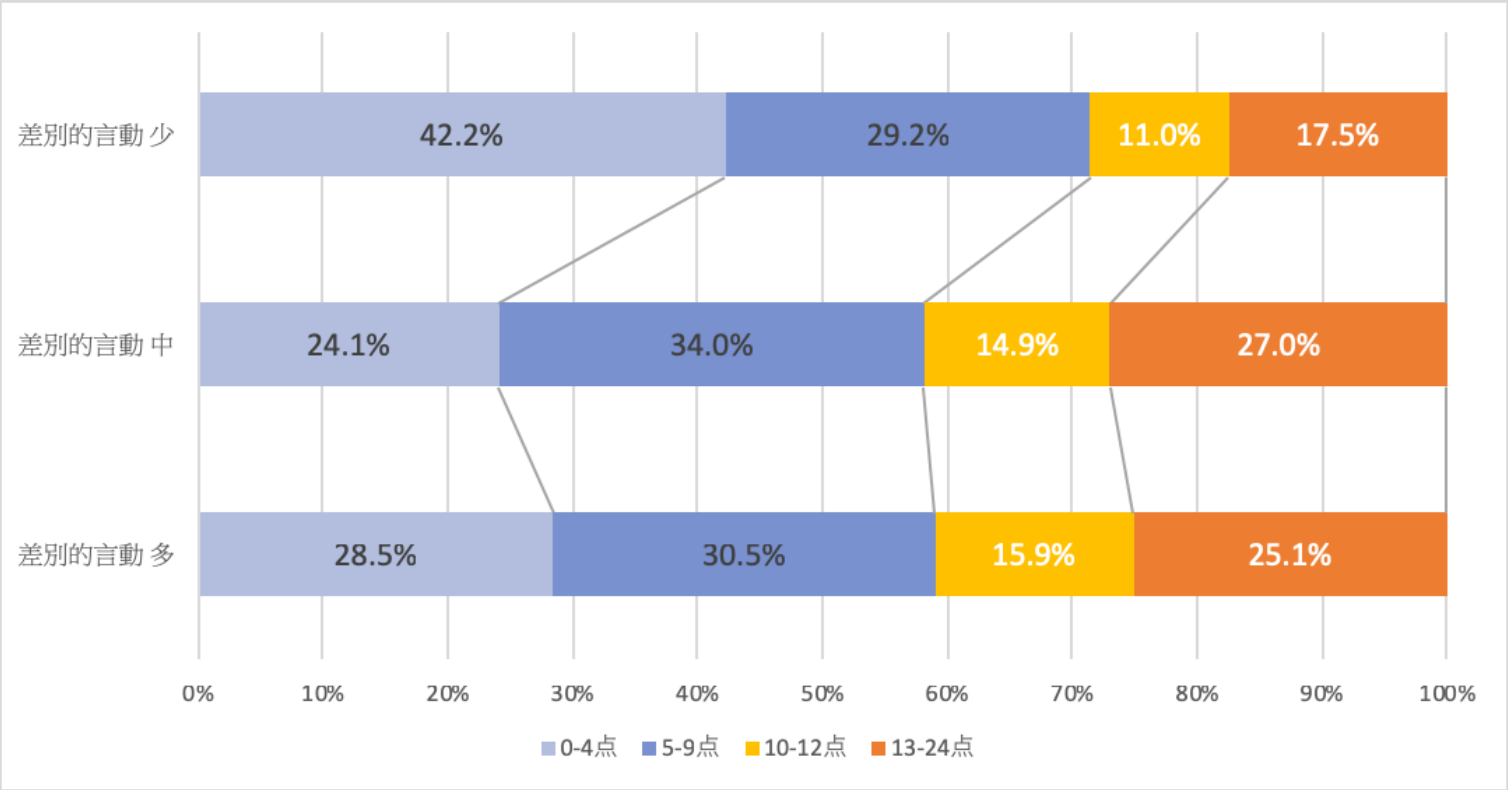
	パートナー制度あり	パートナー制度なし
N=	82	708

LGB他で、札幌市、渋谷区、世田谷区、伊賀市、宝塚市、福岡市、那覇市に在住の方と、そうでない方を比較。
なお、トランスジェンダーで該当地区に住んでいる人は32人のみで、こちらも有意な差はなかった。

✓ パートナー制度の有無で、メンタルヘルスの状況に有意な差はでなかった。
制度が始まったばかりで該当者も少ないことから、継続的な調査が必要。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

差別的言動 x メンタルヘルス(K6)

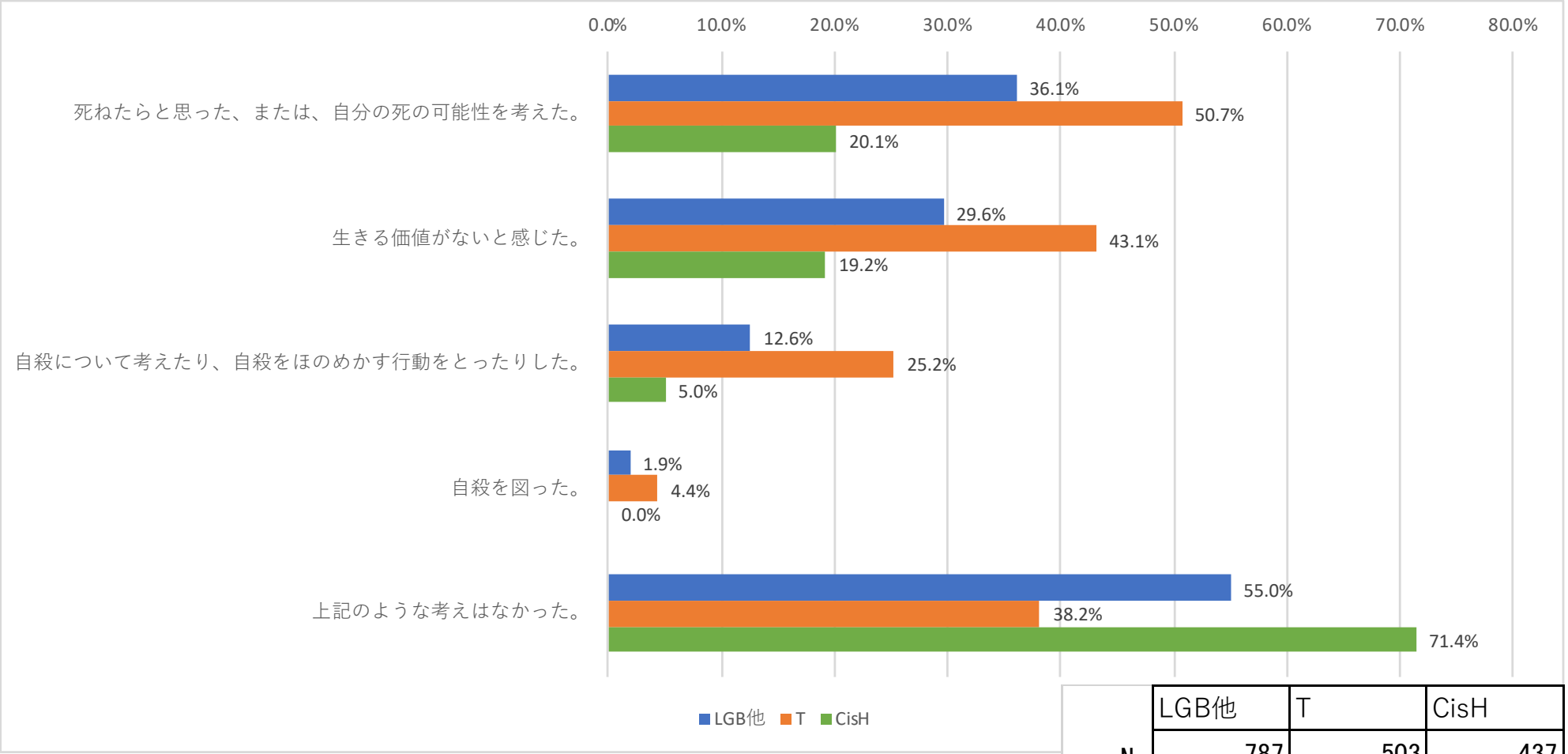


	差別的言動 多	差別的言動 中	差別的言動 少
N=	597	141	554

✓ 差別的言動の少ない職場の方が、メンタルヘルスの状態が良い。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

自死に関する考え・行動



N=	LGB他	T	CisH
	787	503	437

✓ LGB他/T、特にTで、自死念慮、自殺企図が高い。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

家族構成

	シスL	シスG	シスB女性	シスB男性	シスその他女性	シスその他男性	FtM	FtXなど	MtF	MtXなど	シスH女性	シスH男性
一人暮らし	27.4%	45.3%	28.6%	42.1%	29.3%	57.1%	37.0%	32.8%	54.1%	39.7%	27.2%	25.0%
同居人あり	72.6%	54.7%	71.4%	57.9%	70.7%	42.9%	63.0%	67.2%	45.9%	60.3%	72.8%	75.0%
N=	186	254	234	57	41	7	100	268	61	68	305	120

"同居人あり"のうち（一部の項目を抜粋して紹介）

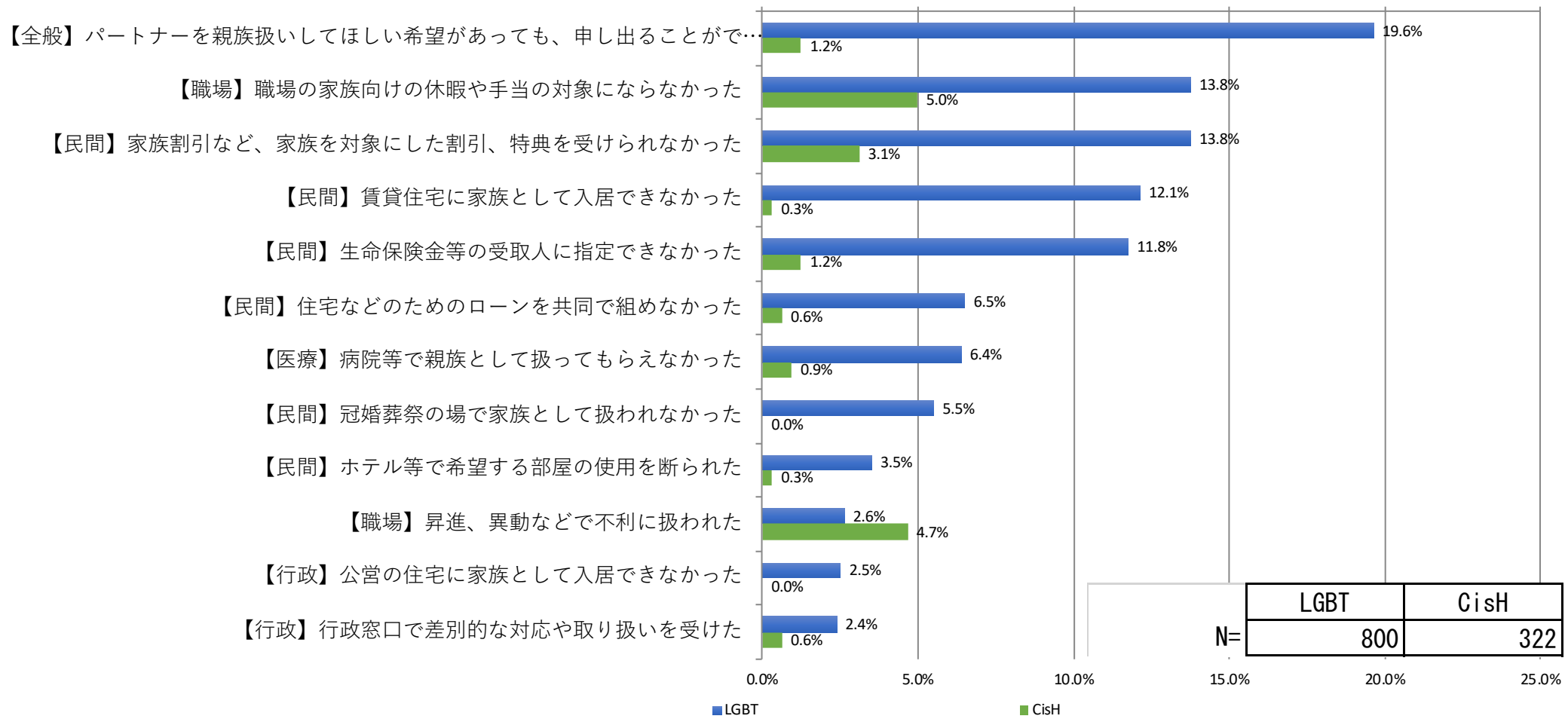
配偶者・パートナー	70.2%	54.5%	58.3%	62.1%	34.6%	33.3%	56.6%	36.5%	56.0%	38.9%	75.2%	86.2%
子ども	11.2%	4.7%	22.2%	40.7%	29.2%	0.0%	8.7%	13.1%	27.3%	22.2%	52.4%	58.5%
父	30.4%	39.3%	42.3%	26.1%	52.0%	66.7%	41.5%	53.3%	39.1%	47.2%	27.9%	27.0%
母	41.0%	53.0%	51.7%	56.0%	65.4%	66.7%	55.6%	70.9%	50.0%	58.3%	37.9%	39.4%
義父	0.0%	2.0%	4.1%	18.2%	4.3%	33.3%	0.0%	0.8%	4.5%	2.9%	3.1%	1.7%
義母	1.1%	2.0%	2.5%	22.7%	0.0%	33.3%	2.4%	2.3%	4.5%	0.0%	4.6%	5.1%
きょうだい	22.9%	24.8%	29.1%	39.1%	25.0%	33.3%	23.9%	45.5%	18.2%	44.4%	19.1%	11.9%

N= 項目によって異なる

✓ LGBTも、非常に多様な家族構成で生活している。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

パートナーに関する経験



✓ パートナーに関連して、生活の様々な場面で親族扱いされないケースがあり、申出もできない現実がある。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

感想：具体的経験

1	トランスジェンダーのため、通称名の使用の許可を尋ねたところ、頑なに拒否された。	FtM	20代	正規雇用	大都市
2	LGBTと分かった時点で、挨拶をされない、 睨まれるなどの差別を受けた	FtM	40代	非正規雇用	大都市
3	雇用時の性別らしく振る舞うこと（行動、服装、業務等）を要請される。女らしく振る舞うのが嫌というと苦言を受ける。	FtXなど	40代	正規雇用	中小都市
4	（前職で）会議の際　近寄るなと言われました。 髪を切らないと、罰則対象だと言われました。	MtF	50代	自営・雇用主	町村部・農山漁村
5	アウティングをされたことがある。	シスG	40代	正規雇用	大都市
6	内勤の事務職にのみ制服があり、スカートのみの点も配慮のなさを感じています。	シスH女性	40代	正規雇用	中小都市
7	外資系企業で、本社の英語表現にはあるが、その和訳とされる和文表記には、性的少数者への配慮や差別禁止文言がなかった。	シスL	40代	非正規雇用	大都市
8	うちの会社には性的マイノリティはいないといわれた	シスその他女性	30代	正規雇用	大都市

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

感想：言動

9	LGBTの存在することすら揶揄したり侮蔑したりといった前時代的な職場にいて、わたし自身のことを噂されているように感じたり、とても息苦しい気持ちになっています。	MtF	40代	正規雇用	中小都市
10	『オカマ』『ホモ』という単語を冗談で使う場面は、日常的に見る。	MtXなど	30代	非正規雇用	町村部・農山漁村
11	40代50代の女性が多い職場なので、「女は子供を産んでなんぼ」という発言を嫌というほど耳にします。うんざりしています。	シスB女性	30代	非正規雇用	町村部・農山漁村
12	独身の人間に対して「あいつはオカマ（オナベ）なんじゃないか」と気軽に、笑い話として消費されていることにも苛立ちを覚えます。	シスB女性	30代	非正規雇用	大都市
13	おかま、おねえ、ホモなどの言葉が差別的に使われるのを以前の職場で見聞きしたことがあり、極めて不適切と、緩やかに注意したが、やや白けた感じになった。	シスH男性	60代以上	自営・雇用主	大都市
14	性的マイノリティへの配慮や肯定的な雰囲気を全く感じさせない発言や態度、好奇の対象として見ているというのがあります。	シスその他男性	40代	正規雇用	町村部・農山漁村

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

感想：その他

15	ダブルマイノリティは2つのものを抱えているため、体力を使う。 後はみなさんがどう対応するか？	MtXなど	30代	非正規雇用	大都市
16	人種差別的な発言と同様、社会全体のコンセンサスとして同性愛者を標榜とする軽口を叩くこと自体がナンセンスであるという社会へと進むと良いなと思う。	シスG	40代	正規雇用	大都市
17	私が感じ取る雰囲気として、配慮して”あげましょう”というのが気に触る。	FtXなど	10代	不明	町村部・農山漁村
18	マジョリティの人達はマイノリティーに対して常に上から目線で物を言う	FtXなど	30代	非正規雇用	中小都市
19	セクマイへの差別発言より、女性への差別発言が頻繁にあって難儀ですね。そもそも、改正均等法まで、男性しか雇用してなかった典型的な男性職場である事が問題。	MtXなど	50代	正規雇用	大都市
20	結婚しろという執拗な同調圧力	シスG	30代	正規雇用	中小都市
21	理解があると感じたことはないです。とても残念なことに、社会人として認められていない気がしてしまう。	シスH女性	30代	非正規雇用	大都市
22	この環境でカミングアウトすれば、下品な興味関心の対象にされるだけで何のメリットもないので、絶対に黙っていようと固く心に誓いました。	シスL	40代	正規雇用	大都市

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

感想：少し前向きなこと

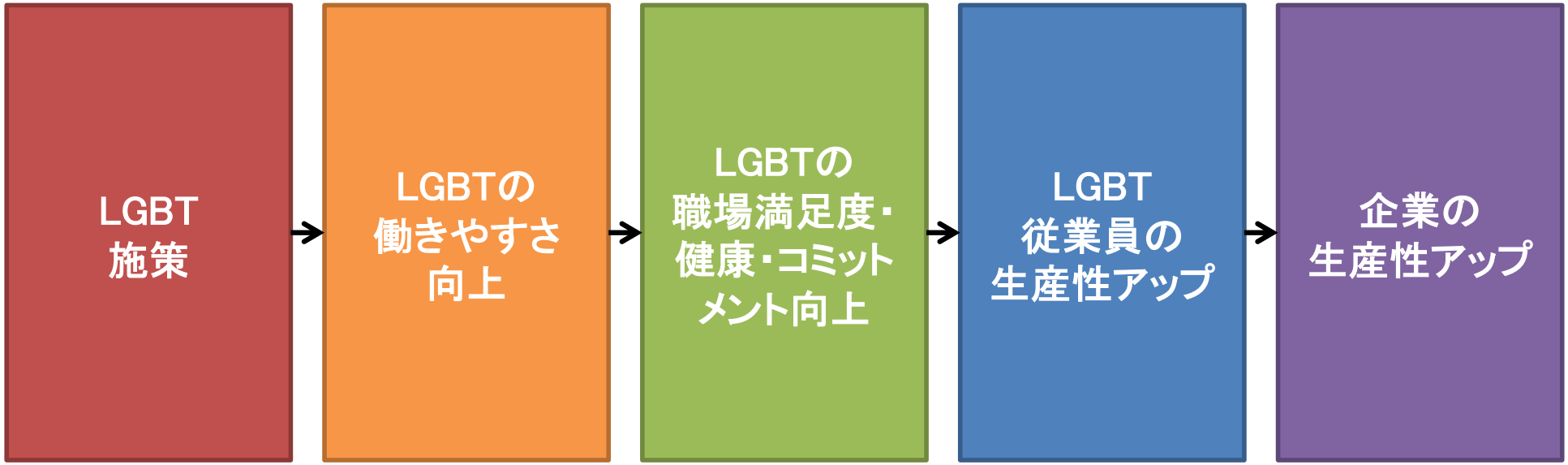
23	更衣室やトイレを分けてくれた。カミングアウトからその対応までが迅速で、感謝した。戸籍上は女性だが、自分を指すときに「彼」と言ってくれた。自分はその場にいなかったが、そのように認識してもらえて嬉しかった。	FtM	20代	正規雇用	町村部・農山漁村
24	結婚式をしたと会社の人に告げたら、結婚祝い金を出してくれた。戸籍上夫婦ではないが、パートナーを「妻」として扱ってくれている。	FtXなど	50代	正規雇用	大都市
25	外資のため毎年ダイバーシティのイベントがある。多様性を見つけることに喜びや楽しみを感じる外国人の姿勢がある。 日本はみんなと同じならば良いという考え方が子供の頃から植え付けられがちだけど、多様性を見つけることが素敵なことだという気持ちになるとしあわせな気持ちが増えると思う！	シスその他女性	40代	正規雇用	大都市
26	子どもの保護者について、「母親だけでなく父親も子育てには参加しているし、過去にはお母さんが二人いらっしゃるご家庭もあった。様々なご家庭があるという認識でいましょう」との発言が役職付きの上司からあった。受け入れられているとは限らないが、すこし安心できた気がした。	シスB女性	20代	正規雇用	大都市

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

まとめ

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

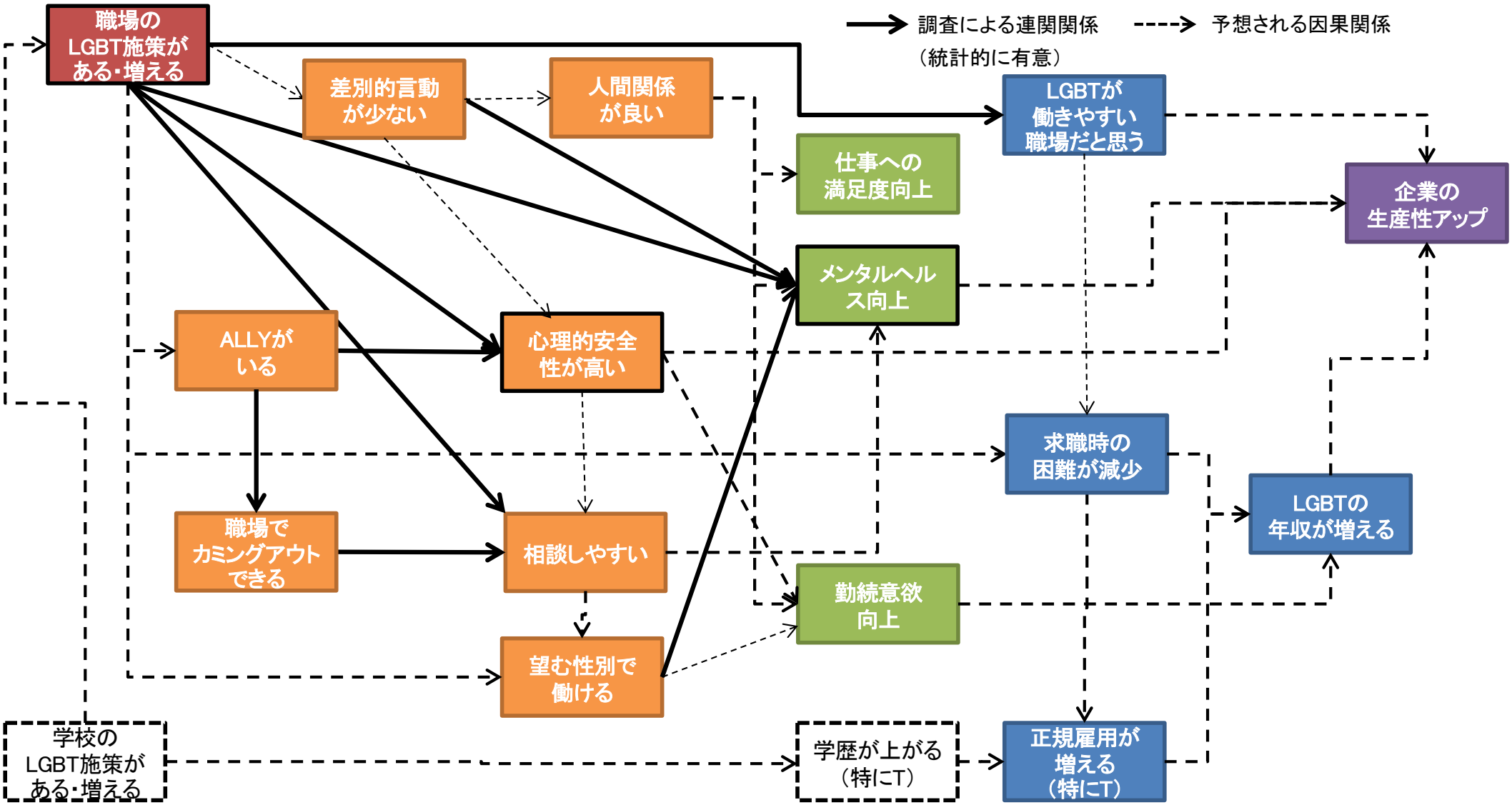
LGBTも働きやすい職場とは（全体像）



※ 2016年のwork with Prideセミナーにおける釜野さおり様の基調講演における資料を参考にしています。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

LGBTも働きやすい職場とは



※ 全体の構造、矢印の向きなどは、現時点のデータ分析結果に基づく、虹色ダイバーシティによる考察(仮説)です。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

KEY FINDINGS

- ✓ SOGIに関するハラスメントは、いまだ多くの職場で見聞きされている。
- ✓ 特にトランスジェンダーでは、望む性別で働けていない場合に、心身の健康にも悪影響があると懸念される。学歴の低さ、非正規雇用の多さなども、年収の低さに繋がっていると思われ、職場だけでなく、教育機関での対応も求められる。
- ✓ 都市部、大手企業の方がLGBT施策を実施している数が多い。特に、地方、中小企業での施策の推進が必要である。
- ✓ 多くのLGBT施策を実施している職場の方が、より相談しやすく、LGBTの働きやすさが向上し、メンタルヘルスの状況もよく、心理的安全性が高まる。LGBT研修を1回やった、社内規定に明記した、という職場も増えてきたと思われるが、単発の施策では不十分だと考えられる。
- ✓ 職場でALLYの存在が可視化されているほど、心理的安全性が高くなる。
- ✓ LGBTのメンタルヘルスの状況は、一般より顕著に悪い。メンタルヘルス施策、自殺予防施策にLGBTの視点が必要である。一方で、LGBTに関する基礎的な統計データはほとんどなく、行政・企業には、LGBTの”声”を意識的にきく姿勢が求められる。
- ✓ LGBTも多様な”家族”と生活しているが、様々な場面でパートナーを親族と見なされない、申し出さえもできない、という体験をしており、尊厳と権利が脅かされている状況である。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

Thank you ;)

- 回答者の皆さま、広報にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。是非継続的に声を聞かせて頂きたく、お願いいたします。

- 企業、行政の皆さま、貴重なご意見をありがとうございました。是非このデータを、働きやすい職場づくりをより一層推進する材料にして頂きたいと思います。

- メディア関係の皆さま、是非このイシューについて、社会的な関心の喚起にご協力下さい。

- 虹色ダイバーシティの活動に、ご支援をお願いいたします。

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

添付資料（設問）

NIJIIRO DIVERSITY
虹色ダイバーシティ

CGS
Center for Gender Studies
International Christian University
Tokyo……Asia

© 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター 2018

niji VOICE 2018 〜LGBTも働きやすい職場づくり、生きやすい社会づくりのための「声」集め〜

このアンケートは、**LGBT**（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字）などの性的マイノリティも働きやすい職場づくり、生きやすい社会づくりのための調査です。職場の状況に加えて、暮らしや健康についての質問もあります。お答えいただいた内容は統計として取りまとめられ、虹色ダイバーシティのホームページなどで公開予定です。

調査実施主体：特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ（研究代表：村木真紀、事務局：加藤悠二）
共同研究：国際基督教大学ジェンダー研究センター（研究代表：高松香奈、研究メンバー：平森大規）

【事前に必ずお読みください】
・アンケートの対象者は、日本の職場で働いた経験のある方です（アルバイトなどの非正規雇用も含みます）。現在働いていない方は、直前の職場についてお答えください。日本で働いた経験がない方は、申し訳ありませんが対象外とさせていただきます。
・性的マイノリティの当事者も、当事者以外の方も回答することができます。
・この調査への回答は任意です。本ページ下部にあるボタンへのクリックをもって、このアンケートへの協力に同意いただいたものとさせていただきます。
・回答項目は50問あり、標準的な回答時間は15分〜30分です。
・どうしても答えたくない質問がありましたら、飛ばして次に進んでいただいてかまいません。
・あなたの名前や会社名などを記入する箇所はありません。
・複数の職場を持っている方は、主な職場についてお答えください。
・現在の職場が海外の方は、直前の日本での職場についてお答えください。
・過去の職場、副業的な職場に関するエピソードや調査に対する意見を記載したい場合は、最後の自由記載欄に記載してください。
・パソコン端末、スマートフォン、タブレット端末から回答可能です。
・前の設問に戻りたいときは「前へ」ボタンを押してください。ブラウザの「戻る」ボタンは使わないようご注意ください。
・複数の方が同じ端末から回答することはできません。
・アンケートの最終ページで、LGBTに関する相談窓口をご紹介しますので、個別の労働相談、生活相談などはそちらをご利用ください。

【データの管理について】
・このアンケート調査はSurveyMonkey社のアンケート・システムを利用して行います。アンケート実施期間中および分析期間中（2018年内を予定）はSurveyMonkey上に回答データを保管しますが、それ以降はSurveyMonkey上のデータは削除します。
・送信内容は暗号化され、安全に調査に参加することができます。
・個人情報を含むデータの秘密保護については徹底して行います。SurveyMonkey上からダウンロードしたデータは暗号つきUSBメモリにて管理し、Web上のクラウド・ストレージなどにはアップロードしません。
・本調査の個票データは、個人を特定できる可能性のある情報を削除した上で、学術目的での二次分析が行えるよう公開する予定です。統計処理可能なデータを公開することで、回答者が類似した調査を何度も受けることによる負担を軽減するとともに、この調査の成果を広く社会に還元することを意図しています。（リンク：虹色ダイバーシティ個人情報保護方針）

【問い合わせ先】
特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ
E-mail：survey(アット)nijiirodiversity.jp (アット)を@に変更してください
アンケート・ホームページ：https://www.nijiirodiversity.jp/survey2018/

なお、本アンケートにおける質問項目の一部は、JSPS科研費JP16H03709の助成を受けた「性的指向と性自認の人口学――日本における研究基盤の構築」（研究代表者：国立社会保障・人口問題研究所　釜野さおり）の研究成果を参考にしています。

1. あなたの年齢をお答えください。

2. あなたは現在、収入をともなう仕事をしていますか。パート、アルバイト、自営業の手伝いや内職も含みます。

- ◯ 仕事を持ち、働いている
- ◯ 在職しているが、病気、出産、育児などで休職中
- ◯ 仕事をしていない

3. あなたはこの中のどれにあたりますか。

- ◯ 学生
- ◯ 主に家事・育児などをしている
- ◯ 失業中
- ◯ 定年退職・高齢のため無職
- ◯ 心身上の事情で働けない
- ◯ その他 (具体的に)

4. あなたの仕事は大きく分けて、この中のどれにあたりますか。（２つ以上仕事をお持ちの場合、主な仕事についてお答えください。現在働いていない方は、直前の職場についてお答えください。）

- ◯ 正社員
- ◯ パート、アルバイト、臨時雇い
- ◯ 派遣社員
- ◯ 契約社員・嘱託
- ◯ 会社などの経営者・役員
- ◯ 自営業主・自由業者
- ◯ 自営業の家族従業者
- ◯ 内職

5. あなたの出生時に戸籍や出生届に記載された性別をお答えください。

- ◯ 女性
- ◯ 男性

6. あなたが現在、自認している性別（性自認）をお答えください。

- ◯ 女性
- ◯ 男性
- ◯ Xジェンダー、中性、両性、無性、不定性
- ◯ その他 (具体的に)

7. あなたは現在の職場でどの性別として働いているか、お答えください。

- ◯ 女性
- ◯ 男性
- ◯ Xジェンダー、中性、両性、無性、不定性
- ◯ その他 (具体的に)

8. 現在、あなたが好きになる相手の性別について、お答えください。

- ◯ 女性
- ◯ 男性
- ◯ 両性（女性、男性）
- ◯ 相手の性別は問わない
- ◯ 該当なし（特定の人を好きにならない）
- ◯ その他 (具体的に)

9. 次の中で、現在のあなたにもっとも近いと思うものを選んでください。

- ◯ ゲイ、レズビアン、同性愛者
- ◯ バイセクシュアル、両性愛者
- ◯ パンセクシュアル、全性愛者
- ◯ アセクシュアル、無性愛者
- ◯ ヘテロセクシュアル、異性愛者
- ◯ 決めたくない、決めていない

10. 現時点で、自分が性的マイノリティであることを伝えている(カミングアウトしている)範囲を教えてください。(複数回答)

- [ ] 該当しない(性的マイノリティの当事者ではない)
- [ ] 誰にもカミングアウトしていない
- [ ] 性的マイノリティ当事者の友人
- [ ] 性的マイノリティ以外の友人
- [ ] きょうだい
- [ ] 母親
- [ ] 父親
- [ ] その他の親族
- [ ] 上司
- [ ] 同僚、部下
- [ ] 取引先、顧客
- [ ] 隣人、地域の人
- [ ] その他 (具体的に)

11. あなたの現在の職場では、何らかの性的マイノリティに関する施策をしていますか。あてはまる項目すべてにチェックしてください。外資系の会社・組織の場合は、日本で適用されている施策をお答えください。(複数回答)

- [ ] 差別の禁止の明文化
- [ ] 経営層の支援宣言
- [ ] 福利厚生での同性パートナーの配偶者扱い
- [ ] トランスジェンダーの従業員へのサポート
- [ ] 相談窓口の設置
- [ ] 性的マイノリティと支援者(アライ)による職場内グループの運営
- [ ] 職場での性的マイノリティに関する研修、eラーニング
- [ ] ステッカーなど啓発グッズの配布
- [ ] 研修以外の職場内の啓発イベント(映画鑑賞会など)
- [ ] 職場外の性的マイノリティに関するイベントへの協賛
- [ ] LGBT市場向けのサービスや商品の提供
- [ ] 特に何の対応もない
- [ ] その他 (具体的に)

12. 職場でどのような性的マイノリティに関する施策があればいいと思いますか。あてはまる項目すべてにチェックしてください。すでに施策としてある場合は、今後も継続してほしいと思うものをお答えください。(複数回答)

- [ ] 差別の禁止の明文化
- [ ] 経営層の支援宣言
- [ ] 福利厚生での同性パートナーの配偶者扱い
- [ ] トランスジェンダーの従業員へのサポート
- [ ] 相談窓口の設置
- [ ] 性的マイノリティと支援者(アライ)による職場内グループの運営
- [ ] 職場での性的マイノリティに関する研修、eラーニング
- [ ] ステッカーなど啓発グッズの配布
- [ ] 研修以外の職場内の啓発イベント(映画鑑賞会など)
- [ ] 職場外の性的マイノリティに関するイベントへの協賛
- [ ] LGBT市場向けのサービスや商品の提供
- [ ] 性的マイノリティに関する施策は必要ない
- [ ] その他 (具体的に)

13. 職場において、性的マイノリティに理解がある、何らかの配慮があると感じたエピソードがあれば、その内容やその時の気持ちを記載してください。過去の職場での経験でも結構です。(自由記載)

14. 現在の会社・組織で何年間働いてきましたか。年数を数字で選択してください。自営業の方は、自営で働き始めてからの年数でお答えください。（1年未満の場合は0を選択してください。）

15. あなたは現在の職場で（可能であれば）今後も働き続けたいと思うか、お答えください。

- ◯ そう思う
- ◯ どちらかといえばそう思う
- ◯ どちらともいえない
- ◯ どちらかといえばそう思わない
- ◯ そう思わない

16. あなたの現在の職場には、性的マイノリティについて理解し、支援する人(アライ)がいるか、お答えください。自分自身がアライである場合も含みます。

- ◯ いる
- ◯ いない
- ◯ わからない

17. あなたの現在の職場で、以下のような言動を見聞きしたことがありますか。見聞きしたことがある項目すべてにチェックしてください。(複数回答)

- ☐ 結婚の予定や恋人の有無を聞く
- ☐ 「女性はすぐに辞める」などと言う
- ☐ 「女(男)らしくしろ」などと言う
- ☐ 育児休職中や、短時間勤務中の従業員を悪く言う
- ☐ 周りに他の人がいる場所で大声で注意する
- ☐ 誰かが同性愛者なのではないかと噂する
- ☐ 誰かの性別を勝手に推測したり、噂したりする
- ☐ 学歴や雇用形態によって横柄な態度をとる
- ☐ 特定の国や民族について悪く言う
- ☐ 障害者に対して、できないことを責める
- ☐ いずれも職場で見聞きしたことはない

18. あなたの就職・転職活動において、自分の性のあり方（性的指向、性自認など）に関連した困難を感じたことがありますか。

- ◯ ある
- ◯ どちらかといえばある
- ◯ どちらともいえない
- ◯ どちらかといえばない
- ◯ ない

19. あなたが現在、お住まいの都道府県をお答えください。職場ではなく居住地で選択してください。

20. あなたが現在、お住まいの地域は、どのような地域だと思いますか。最も近いものを1つ選んでください。

- ◯ 大都市の中心部
- ◯ 大都市の郊外
- ◯ 中小都市
- ◯ 町村部
- ◯ 人家がまばらな農山漁村

21. 現時点で、あなたは同性同士でもパートナー登録できる（証明書などが発行される）市区町村にお住まいですか。

- ◯ はい（札幌市、渋谷区、世田谷区、伊賀市、宝塚市、福岡市、那覇市）
- ◯ いいえ（上記以外の市区町村）

22. 同性パートナーを登録できる市区町村にお住まいの方は、市区町村名を選択してください。

- ◯ 札幌市
- ◯ 渋谷区
- ◯ 世田谷区
- ◯ 伊賀市
- ◯ 宝塚市
- ◯ 福岡市
- ◯ 那覇市

23. この1年以内に、現在の職場で、あなた自身が性的マイノリティに関する差別的な言動を受けたことがどの程度あるか、お答えください。就業時間、休憩時間、就業時間後（職場の宴会など）を含みます。

- ◯ よくある
- ◯ ときどきある
- ◯ どちらともいえない
- ◯ あまりない
- ◯ まったくない

24. この1年以内に、あなたの現在の職場で、性的マイノリティに関する差別的な言動を見聞きしたことがどの程度あるか、お答えください。就業時間、休憩時間、就業時間後（職場の宴会など）を含みます。

- ◯ よくある
- ◯ ときどきある
- ◯ どちらともいえない
- ◯ あまりない
- ◯ まったくない

25. 職場で性的マイノリティに関する差別的な言動を受けたことがある方、見聞きしたことがある方は、その内容やその時の気持ちについて、差し支えなければ、具体例を記載してください。就職活動、転職活動における経験、過去の職場での経験でも結構です。(自由記載)

26. もしあなたの職場で、性のあり方（性的指向、性自認など）に関連した差別的言動や困りごとがあった際に、以下にある相談先のそれぞれについて、どのくらい相談しやすい、または相談しにくいと思いますか。以下の相談先が周囲にない場合は「該当なし」を選択してください。

	相談しやすい	どちらかといえば相談しやすい	どちらかといえば相談しにくい	相談しにくい	該当なし
家族	○	○	○	○	○
LGBT当事者の友人	○	○	○	○	○
LGBT当事者ではない友人	○	○	○	○	○
職場の上司	○	○	○	○	○
職場の同僚・部下	○	○	○	○	○
職場の人事部門・相談窓口・保健センター	○	○	○	○	○
労働組合	○	○	○	○	○
市区町村の相談窓口、保健所	○	○	○	○	○
労働局、労働基準監督署などの窓口	○	○	○	○	○
弁護士などの法律の専門家	○	○	○	○	○
医師、心理カウンセラー、ケースワーカーなどの医療・福祉関係者	○	○	○	○	○
職場外のLGBTに関する専門相談、LGBT支援団体	○	○	○	○	○
（あなたが学生、教職員の場合）学校の教職員・相談窓口	○	○	○	○	○

27. あなたは今の仕事に満足していますか。

- ◯ 満足している
- ◯ どちらかといえば満足している
- ◯ どちらともいえない
- ◯ どちらかといえば不満
- ◯ 不満

28. あなたの職場の人間関係について、もっともあてはまる選択肢を選んでください。

- ◯ 良好
- ◯ どちらかといえば良好
- ◯ どちらともいえない
- ◯ どちらかといえば悪い
- ◯ 悪い

29. あなたの職場は、自分の考えや感情を安心して気兼ねなく発言できる雰囲気だと思いますか。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

30. あなたの職場は、性的マイノリティもいきいきと働ける職場だと思いますか。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

31. この1年間で、次のような健康診断(人間ドック含む)を受けましたか。あてはまるものすべてにチェックしてください。(複数回答)

- ☐ 職場や学校でまとめて受ける健康診断（集団健診）
- ☐ 学校や職場、健保組合等が費用負担して、個別に受ける健康診断
- ☐ 自治体の健康診断
- ☐ 病院、クリニック等で自費で受ける健康診断
- ☐ どれも受けていない

32. あなたは、現在、慢性的な病気、長期にわたる健康上の問題、障害をかかえていますか。（複数回答）

- ☐ 特に病気、健康上の問題、障害はない
- ☐ 高血圧、動脈硬化、心疾患
- ☐ 糖尿病
- ☐ メタボリック症候群
- ☐ 悪性腫瘍（がん）
- ☐ うつ病
- ☐ 双極性障害
- ☐ HIV/AIDS（エイズ）
- ☐ 膀胱炎などの排泄（はいせつ）障害
- ☐ 発達障害（自閉症スペクトラム、ADHD、学習障害など）
- ☐ アルコールなどの依存症
- ☐ その他 (具体的に)

33. あなたは、これまでに次のようなことはありましたか。（複数回答）

- ☐ 心身の病気やケガで休職したこと
- ☐ 出産休暇、育児休業を取得したこと
- ☐ 介護休業を取得したこと
- ☐ 失業や退職後、無職でいたこと
- ☐ 他の理由による休職や無職
- ☐ 上記のような経験はない

34. 過去30日の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。あてはまる回答を選択してください。

	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも
神経過敏に感じましたか。	○	○	○	○	○
絶望的だと感じましたか。	○	○	○	○	○
そわそわ、落ち着かなく感じましたか。	○	○	○	○	○
気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか。	○	○	○	○	○
何をするのも骨折りだと感じましたか。	○	○	○	○	○
自分は価値のない人間だと感じましたか。	○	○	○	○	○

35. この1年間のあなたについて、あてはまるものすべてにチェックしてください。（複数回答）

- ☐ 生きる価値がないと感じた。
- ☐ 死ねたらと思った、または、自分の死の可能性を考えた。
- ☐ 自殺について考えたり、自殺をほのめかす行動をとったりした。
- ☐ 自殺を図った。
- ☐ 上記のような考えはなかった。

36. あなたの会社・組織で働いている人の人数はこの中のどれにあたりますか。身近な職場だけでなく、会社・組織全体でお答えください。（あなた自身、家族従業者、パートの方など、働いている方をすべて含めてください。省庁や自治体から給与を得ている場合（公立学校の教師、消防署員など）は、官公庁に含めてください。ただし、公社や各種法人は官公庁に含めません。）

- ◯ 1人（自分だけ）
- ◯ 2〜4人
- ◯ 5〜9人
- ◯ 10〜29人
- ◯ 30〜99人
- ◯ 100〜299人
- ◯ 300〜499人
- ◯ 500〜999人
- ◯ 1000〜1999人
- ◯ 2000〜9999人
- ◯ 1万人以上
- ◯ 官公庁
- ◯ わからない

37. ふだん、あなたは１週間あたり何時間働いていますか。残業も含めてください。

38. あなたのお勤め先（職場）は、どのような事業をしていますか。次の中でもっとも近いものを選んでください。（２つ以上仕事をお持ちの場合、主な仕事についてお答えください。公務の場合は、勤め先の事業が他の選択肢にない場合のみ、「公務」を選んでください。）

- ◯ 農業、林業
- ◯ 漁業
- ◯ 鉱業、採石業、砂利採取業
- ◯ 建設業
- ◯ 製造業
- ◯ 電気・ガス・熱供給・水道業
- ◯ 情報通信業（出版、マスコミ業を含む）
- ◯ 運輸業、郵便業
- ◯ 卸売業、小売業
- ◯ 金融業、保険業
- ◯ 不動産業、物品賃貸業
- ◯ 学術研究、専門・技術サービス業（広告、著述・芸術家業を含む）
- ◯ 宿泊業、飲食サービス業
- ◯ 生活関連サービス業、娯楽業（洗濯・理容・美容・浴場業を含む）
- ◯ 教育、学習支援業
- ◯ 医療、福祉（保健衛生、社会保険・介護事業を含む）
- ◯ 複合サービス事業（郵便局、協同組合）
- ◯ その他のサービス業（廃棄物処理、整備、修理、職業紹介・派遣事業を含む）
- ◯ 政治・経済・文化団体、宗教団体
- ◯ 公務（政府・地方自治体固有の業務）
- ◯ その他 (具体的に)

39. あなたは通常、お勤め先（職場）でどのような仕事をしていますか。次の中でもっとも近いものを選んでください。（２つ以上仕事をお持ちの場合、主な仕事についてお答えください。）

- ◯ 管理職（課長相当以上の役職）
- ◯ 専門職・技術職
- ◯ 事務職
- ◯ 販売・営業職
- ◯ サービスの仕事（介護職員、理美容師、接客業、ビル管理人を含む）
- ◯ 保安の仕事（自衛官、警察官、消防士、警備員など）
- ◯ 農林漁業の仕事
- ◯ モノを製造・加工する仕事
- ◯ 機械や設備・乗物を運転する仕事
- ◯ 建設現場の仕事・採掘の仕事
- ◯ 運搬・清掃・包装の仕事
- ◯ その他 (具体的に)

40. あなたの役職はこの中のどれにあたりますか。もっとも近いものを選んでください。

- ◯ 役職なし
- ◯ 職長・班長・組長など
- ◯ 係長（係長相当）
- ◯ 課長（課長相当）
- ◯ 部長（部長相当）
- ◯ 社長、重役、役員、理事
- ◯ その他の役職(具体的に)

41. 昨年1年間にあなたが主な仕事で得た収入は、次のうちどれですか。各種手当、賞与・ボーナスなども含めて税込（額面）でお答えください。副収入、年金、家賃収入、配当金、仕送りなどは含みません。

- ◯ 仕事で得た収入はなかった
- ◯ 100万円未満
- ◯ 100万円以上〜200万円未満
- ◯ 200万円以上〜300万円未満
- ◯ 300万円以上〜400万円未満
- ◯ 400万円以上〜500万円未満
- ◯ 500万円以上〜600万円未満
- ◯ 600万円以上〜700万円未満
- ◯ 700万円以上〜800万円未満
- ◯ 800万円以上〜900万円未満
- ◯ 900万円以上〜1000万円未満
- ◯ 1000万円以上〜1100万円未満
- ◯ 1100万円以上〜1200万円未満
- ◯ 1200万円以上〜1300万円未満
- ◯ 1300万円以上〜1400万円未満
- ◯ 1400万円以上〜1500万円未満
- ◯ 1500万円以上
- ◯ わからない

42. 現在、あなたは一緒に住んでいる方がいますか。

◯ いる

◯ いない（ひとり暮らし）

43. 現在、あなたと一緒に住んでいる方について、 続柄ごとの人数をそれぞれ選んでください。該当しない選択肢は「0人」としてください。

	0人	1人	2人	3人以上
配偶者・パートナー	○	○	○	○
子ども	○	○	○	○
子どもの配偶者・パートナー	○	○	○	○
父	○	○	○	○
母	○	○	○	○
義父	○	○	○	○
義母	○	○	○	○
きょうだい	○	○	○	○
孫	○	○	○	○
他の親族	○	○	○	○
その他	○	○	○	○

44. 現在、配偶者やパートナーがいる、あるいは、過去にいたことがありますか。

◯ はい（配偶者やパートナーがいる、いた）

◯ いいえ（配偶者やパートナーがいたことはない）

45. 配偶者やパートナーがいる、いたことで、今までに、自分自身やパートナーが以下のような扱いを受けた経験はありますか。過去の経験も含めてお答えください。（複数回答）

- ☐ 【職場】昇進、異動などで不利に扱われた
- ☐ 【職場】職場の家族向けの休暇や手当の対象にならなかった
- ☐ 【民間】家族割引など、家族を対象にした割引、特典を受けられなかった
- ☐ 【民間】結婚式、葬儀など、冠婚葬祭の場で家族として扱われなかった
- ☐ 【民間】ホテル等で希望する部屋の使用を断られた
- ☐ 【民間】賃貸住宅に家族として入居できなかった
- ☐ 【民間】住宅などのためのローンを共同で組めなかった
- ☐ 【民間】生命保険金等の受取人に指定できなかった
- ☐ 【行政】公営の住宅に家族として入居できなかった
- ☐ 【行政】行政窓口で差別的な対応や取り扱いを受けた
- ☐ 【医療】病院等でパートナーを親族として扱ってもらえなかった
- ☐ 【全般】パートナーを家族扱いしてほしい希望があっても、申し出ることができなかった
- ☐ 該当なし（特に差別的な扱いを受けたことがない）
- ☐ その他 (具体的に)

46. あなたが最後に通った、あるいは現在通っている学校は次のうちどれにあたりますか。その学校が専門学校、専修学校、フリースクールの場合は、その前の学校をお答えください。

- ◯ 小学校、中学校
- ◯ 高校（全日制）
- ◯ 高校（通信制、定時制）
- ◯ 短大、高専
- ◯ 大学
- ◯ 大学院（修士課程、専門職大学院）
- ◯ 大学院（博士後期課程）
- ◯ その他 (具体的に)

47. あなたは最後に通った学校を卒業しましたか。中退しましたか。それとも、現在、在学中ですか。

- ◯ 卒業
- ◯ 中退
- ◯ 在学中

48. あなたは専門学校（高専は含みません）、専修学校、フリースクールに通ったことがありますか。（複数回答）

- [ ] 専門学校、専修学校に通ったことがある
- [ ] フリースクールに通ったことがある
- [ ] いずれも通ったことがない

49. このアンケートの感想、職場や社会に関する思いなど、自由に記載してください。(自由記載)

50. 今後、このアンケートを実施しているNPO（虹色ダイバーシティ）から性的マイノリティに関する情報などをお伝えするメールマガジンをお送りしてもよいでしょうか。お送りしてもよい場合は、メールアドレスをご記入ください。不要な場合は「次へ」ボタンを押してください。

このページでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました！
下の「完了」ボタンを押すと、この端末から再度入力すること、修正することはできなくなりますので、ご注意ください。

よろしければ、以下のリンク、QRコードを使って、お知り合いの方にこのアンケートを広めていただけると嬉しいです。多くの声を集めることで、より詳細な分析が可能になります。ご協力よろしくお願いします！

https://jp.surveymonkey.com/r/nijiVOICE2018

個別の労働相談、生活相談については、以下のような相談窓口がありますので、ご紹介いたします。

よりそいホットライン（厚生労働省による補助金事業）
0120-279-338
24時間 通話料無料 音声ガイダンスで4番(性別や同性愛などに関わる相談)を選択
http://279338.jp/yorisoi/

東京弁護士会「セクシュアル・マイノリティ電話法律相談」
03-3581-5515
毎月第2木曜日・第4木曜日（祝祭日の場合は翌金曜日） 17:00～19:00
https://www.toben.or.jp/know/iinkai/seibyoudou/news/post_26.html

大阪弁護士会「弁護士によるLGBTsのための電話相談」
06-6364-6251
毎月第4月曜日 16:00～18:00（祝祭日や年末年始は変更可能性あり）
https://www.osakaben.or.jp/01-aboutus/committee/room/jinken/04.php

福岡県弁護士会「LGBTに関する無料電話法律相談」
070-7655-1698
毎月第2木曜日 13:00-17:00
http://www.fben.jp/whats/lgbt.html